

すべての革新は患者さんのために



中外製薬



ロシュ グループ

中外製薬株式会社

中外製薬 ESG 説明会

2021 年 11 月 16 日

イベント概要

[企業名] 中外製薬株式会社

[企業 ID] 4519

[イベント言語] JPN

[イベント種類] アナリスト説明会

[イベント名] 中外製薬 ESG 説明会

[決算期]

[日程] 2021 年 11 月 16 日

[ページ数] 52

[時間] 10:00 – 11:32
(合計：92 分、登壇：62 分、質疑応答：30 分)

[開催場所] 野村コンファレンスプラザ日本橋／電話会議

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 5 名
代表取締役副会長 上野 幹夫 (以下、上野)
上席執行役員 CFO 板垣 利明 (以下、板垣)
執行役員 臨床開発本部長 草野 司 (以下、草野)

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



サステナビリティ推進部長	山田 茂裕	(以下、山田)
デジタルエンジニアリング部	斎藤 誠司	(以下、斎藤)
広報 IR 部長	笹井 俊哉	(以下、笹井)

[アナリスト名]*	大和証券	橋口 和明
	シティグループ証券	山口 秀丸
	モルガン・スタンレーMUFG 証券	村岡 真一郎

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



登壇

笹井：それではお時間となりましたので、始めさせていただきたいと思います。皆様、本日はお忙しい中、中外製薬 ESG 説明会にご参加くださいます。誠にありがとうございます。司会進行を務めます広報 IR 部の笹井と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、会場講演及び電話会議の併用にて実施いたします。

中外製薬 ESG説明会 Agenda



01	サステナビリティのマネジメント	代表取締役 副会長 上野 幹夫
02	マテリアリティと企業評価	上席執行役員 CFO 板垣 利明
03	成長戦略におけるESG 持続可能な医療に向けた開発	執行役員 臨床開発本部長 草野 司
04	成長戦略におけるESG 地球環境の取り組み（製薬）	サステナビリティ推進部長 山田 茂裕

3

本日の会次第でございますが、会場スクリーン、ウェブ画面、及びプレゼン資料 2 ページ目にお示ししております。こちらの内容に沿ってご説明申し上げます。

ご質問は、プレゼンテーションがすべて終了した後、まとめてお受けいたします。QA の時間は約 30 分ほどを予定しております。

それでは早速でございますが、中外製薬代表取締役副会長、上野より、サステナビリティとマネジメントについてご説明申し上げます。副会長、よろしくお願いいたします。

上野：皆さん、おはようございます。上野でございます。本日は、3 回目の中外製薬 ESG 説明会、大変ご多用のところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



COVID-19の影響をはじめ、社会、経済環境、非常にめまぐるしく変化をしております。私たちも多様な社会課題に直面しておりますが、その解決には、皆様方ステークホルダーとの対話が欠かせないと考えております。本日は1時間弱でございますけれども、お付き合いいただきたいと思います。

本日は、110名の方がご参加をいただいております。会場では10人弱の方がご出席をいただいております。昨年度は、約80強の方がご出席で、20名の方が会場にお越しをいただいたと、そういう状況でございます。

COVID-19の影響の後に、多様なニーズの方々のご意見を参考に、こういうハイブリッドの形で開催できる、これが新しいDXも含めて、ニューノーマルの定着ではないかと考えております。

私どもも、医療機関とのコンタクトも非常にCOVID-19の状況で、厳しい状況でございます。そういう中でも、ウェブセミナーを開催し、普段は移動が長距離で参加ができない先生方が、ウェブによって非常に身近に診療の後に参加ができると、好評いただいておりますので、今後もハイブリッドという形が定着していくのではないかと考えております。

ESG説明会の開催にあたって

～PDCAを回し対話充実とESG高度化を目指す～



2019年 第1回 ESG説明会 ～ESGの全体像～

【説明会テーマ】

- ・ 中外製薬の価値創造
- ・ マテリアリティ
- ・ IBI 21とESGの取り組み

【実施で得た気づき】

- ✓ ステークホルダー関心事へのフォーカス
- ✓ 戦略・計画化の重要性

2020年 第2回 ESG説明会 ～ESG面の戦略・計画～

【説明会テーマ】

- ・ サステナビリティ面の進捗
- ・ サステナビリティ関連指標
- ・ 長期計画（SCM・環境）
- ・ グローバルヘルス

【実施で得た気づき】

- ✓ 経営戦略としての解説
- ✓ リスク分析の充実

2021年 第3回 ESG説明会 ～経営戦略としてのESG～

成長戦略とマテリアリティの
関係性などを整理。

各事業部門が
経営戦略の一環として進める
ESGの取り組みを解説。

5

さて、まず最初に、私ども3回目と先ほど申し上げましたけれども、どういう主題で今日お話をするかという内容についてお話をしたいと思います。

まず1回目は、私どもの中外製薬のESGの取り組みに対する全体像のお話をし、2回目、昨年ですけれども、主力のテーマについてご案内をさせていただきました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



投資家の方々から、アンケートによりますと、個別の ESG 活動というのは比較的理解ができたんだけれども、医薬品の創薬や成長戦略との関係、これが ESG とどう関わりがあるのかということについて説明をしてほしいというご意見がございましたので、今回は一步進めて、中外製薬が経営戦略としての ESG をどのように進めていくのか、いっているのか、いきたいのかというところを中心にお話をしていきたいと思います。

この経営戦略と ESG は相互依存関係にあるということも触れてみたいと思います。

今後は、皆さん方との対話に基づいて、PDCA サイクルを回して、ESG の取り組みを高度化するとともに、引き続き ESG 説明会を開催してまいりたいと思っております。

社外取締役メッセージ

～ESG説明会の意義～



社外取締役
一丸 陽一郎

皆さまの忌憚のないご意見が中外製薬を強くします。

社会との共有価値創造を基本方針とする中外製薬では、ESGは中長期の経営戦略そのものと位置付けています。2030年に目指すトップイノベーター像の中でも「世界のロールモデル」を標榜し、ESG活動の一層の充実を図っており、取締役会においてもサステナビリティに関する議論は増えていることを実感しています。

中外製薬が標榜する「患者中心の高度で持続可能な医療」を実現していくためには、何よりも社員一人ひとりが、ESGの側面も含めた事業活動を自分事としてとらえ、それぞれの現場で共有価値を生み出していくことが重要です。コロナ禍で、製薬会社は患者さん自身やご家族だけでなく、医療関係者の負担軽減や医療全体のQOLにも貢献できることを、改めて強く認識できたことと思います。

そうした中、本説明会をはじめとした、ESGに関する継続的な対話は、外部からの期待や要望を把握し、経営に反映させるというサイクルを回す上で意義のあるものと考えます。私自身は、自動車業界の経験が多いものの、業種や業界を超えて共有できるものも多数あります。多様性を活かして新しい価値を生み出していくという観点から、中外製薬の社員や外部のさまざまなステークホルダーの皆さまとの対話を深めていきたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。

6

本題に入ります前に、社外取締役からメッセージを預かっております。

社外取締役の一丸様でございます。そこにありますように、一丸様からは、取締役会や、その事前の説明会、打ち合わせでも ESG の取り組みやステークホルダーとの対話について、忌憚のない意見、またアドバイスをいただいております。

引き続き社外取締役も含めまして、ESG についてコミットしてまいりたいと思います。

そこにありますように、セカンドパラグラフですけれども、中外製薬が標榜する「患者中心の高度で持続可能な医療」を実現していくためには、何よりも社員一人ひとりが ESG の側面も含めた事業活動を自分事としてとらえ、それぞれの現場で共有価値を生み出していく、そういうことが必要

サポート

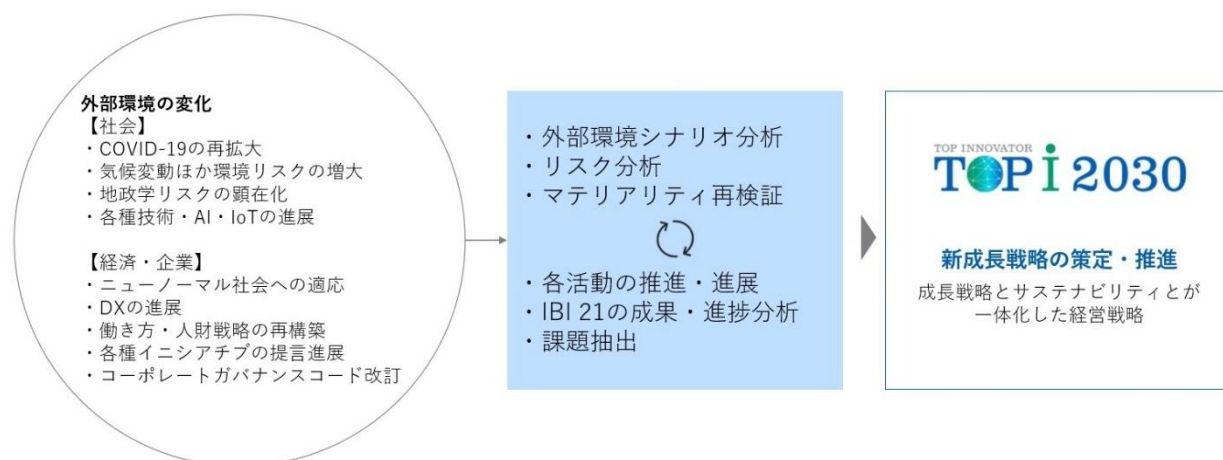
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



だ、重要だと言われてますし、また、ESG に関する継続的な対話は、外部からの期待や要望を把握し、経営に反映させるという、そういうサイクルを回すということが意義があると言われているわけでございます。

環境変化と経営戦略

～環境変化と活動の進捗を踏まえ新成長戦略を策定・推進～



7

続きまして、この外部環境の変化に対して、私どもがどういう対応を取っているかということでございます。

昨年の ESG 説明会の時にちょっと触れさせていただいたんですが、ウィズコロナ、アフターコロナの中で、昨年までやっていた事業活動が本当に通用するのかどうかということをもう一度棚卸をして見直す必要があるだろうと、お話をさせていただきました。

私どもは、外部環境シナリオ分析やリスク分析をして、マテリアリティについてまた再検証をさせていただきました。従来のマテリアリティからは変更がないことを確認させていただいたわけです。

そしてこれらの分析とそれぞれの事業活動の進捗やレビューを踏まえ、2030 年をゴールとする新成長戦略 TOP I 2030 をスタートさせたわけです。

TOP I 2030 は、共有価値の創造を目指し、中長期戦略であるサステナビリティと成長戦略が一体化した経営戦略としております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



基本方針（当社の目指す姿）

～ミッション、成長戦略、マテリアリティの一貫性を重視～



8

こちらが当社の経営の考え方をまとめたものであります。

私どもは、当社と社会の共有価値の創造を経営の基本方針としております。提供価値、いわゆるアウトカムとしては、ミッションに基づき、「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」を定め、この実現に向けて、ヘルスケア産業のトップイノベーターを目指し、TOP I 2030 の推進をしていくということでございます。

そして TOP I 2030 の土台となっているのが 8 分野、25 項目のマテリアリティであります。

私は、サステナビリティ視点で、企業価値を高めていくためには、こうした方針、戦略が一貫していること、そしてその考え方に基づき、それぞれの機能、部門が主体的に実行し、責任を持って進めることが何よりも重要だと考えております。

この実行の実現により、社会課題の解決の一翼を担うことができ、社会の発展と当社の企業価値の向上を進めていく。それによりまして、社会にはなくてはならない、そういう存在、会社でありたいと考えておる次第でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



1年の総括：ESGに関わる活動の進捗

～環境変化に対応しながら着実に前進～



持続可能な医療	・順調な新規創製・開発の進展 ・新製品発売・適応拡大の上市 ・AI創薬をはじめとするDXの加速 ・COVID-19用治療薬・開発品の進展	地球環境	・中期環境目標2030の策定 ・TCFD提言に基づくシナリオ分析実施 ・各環境目標に応じた取り組み進展
コーポレート・ガバナンス	・外部第三者による取締役会実効性評価の実施 ・ERM導入 ・ステークホルダーとの対話促進	人財	・新人事制度の運用 ・タレントマネジメントの強化 ・高度専門人財獲得・強化 ・「新しい働き方」の策定・定着
倫理・コンプライアンス	・コンプライアンスモニタリング実施 ・購買ポリシー策定・社内教育実施	人権	・委託先人権デューデリジェンスの実施 ・被験者安全性確保施策の実施
サプライチェーンマネジメント	・デジタルプラント実現への取り組み ・サプライヤー・コード・オブ・コンダクト策定・共有 ・サプライヤーリスク評価の実施	社会貢献	・社会貢献活動の体系整理・重点分野の再設計 ・グローバルヘルス活動の推進

9

1年間の総括としての ESG に関わる活動の進捗でございます。

ここにありますように、マテリアリティ 8 分野の進展の結果でございます。いずれも COVID-19 をはじめとする環境変化の影響を受けながら、計画目標に沿って、機動的に各施策を実行できたと考えております。

この 1 年間の活動から今後の新たな目標、課題というのが二つ、見えてきていると思っております。

まず一つは、ESG において、社会からも非常に関心の高い分野であります地球環境という問題です。特に気候変動対策については、昨年、当社は 2050 年に CO₂ 排出量の目標として、いわゆるカーボンニュートラル、実質ゼロと言うんですかね、排出量マイナス吸収量イコールゼロと、そういう概念ではなくて、私どもの 2050 年 CO₂ 排出量をゼロにするという目標を掲げて、中期環境目標 2030 を策定いたしました。

様々な施策立案、分析を通じて、Scope1、2 の達成の道筋というのは、いろいろ課題はございますけれども、ある程度描けるという状況にきております。

この件につきましては、後ほど山田のほうからご説明をさせていただきたいと思いますけれども、この Scope1、2 の後にあります課題としての Scope3 の削減、これがやはり非常に大きな問題だという認識をしておりますので、今後はこの Scope3 についても検討を進めるということを考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



またこれまでサプライチェーンは、狭義の意味での仕入先を中心に考えてまいりましたが、これからはその枠組みを広げて、様々なビジネスパートナー、そういう方々と私どもがガバナンスですとか、コンプライアンス、それから地球環境、人財、人権、社会貢献等々の、いわゆる ESG の活動、または私どもが持っておりますマテリアリティの部分も含めたものについて、同じ価値観を持って取り組んでいただく。そういうことが大事だろうと思っております。

そうすることによって、そのパートナーの方々と一緒に社会課題の解決をし、お互いに企業価値を高めていくと、そういう関係のパートナーと一緒にことを進めていくことが大事だろうと思っておりますし、それが私どものロールモデルということになろうかと思えます。

事例：COVID-19に対する医薬品アクセスの責務

～「アクテムラ」の安定供給に向けた取り組み～



COVID-19肺炎への「アクテムラ」の使用

海外：WHOガイドライン推奨（2021年7月）
米国：FDAからEUA付与（2021年6月）
国内：2021年申請予定

安定供給に向けた取り組み

需要増大前からロシュグループ全体で増産体制を構築

- ・宇都宮工場での増産体制構築
- ・ジェネンテックでの製剤化拡充
- ・製造ネットワークを強化し、世界中の大規模メーカーとの契約を通じた技術移転、生産を最大化

2021年には従来比で2倍以上の供給を実現

さらなるCOVID-19対応に向けた取り組み

倍増させた供給量を超える世界的な需要急増により供給不足の状況

- ・製造能力の制限
- ・原材料供給の制約
- ・生物製剤を製造する複雑で労働集約的なプロセス
- ・COVID-19流行拡大の動的変化

ロシュグループ全体で医薬品アクセス改善とCOVID-19対応の取り組み推進

- ・世界の保健当局やパートナーとの緊密な連携の下での流通戦略強化
- ・低所得国向けでは、中外製薬とロシュが持つ同剤の特許権を行使せず
- ・「ロナプリーブ」や「AT-527」などの軽症～中等症向け治療薬の早期開発・浸透で重症化を抑制

10

続きまして、COVID-19 の事例を少しお話させていただきたいと思えます。

COVID の-19 治療薬に関して、軽症、中等症向けの治療薬のロナプリーブや AT-527 の開発状況につきましては、別途、別の機会でいろいろお話をさせていただいていると思えますので、ここでは医薬品のアクセスの側面としてのアクテムラの安定供給について、触れてみたいと思えます。

COVID-19 肺炎でのアクテムラの使用を想定し、当社でロシュグループ全体として安定供給を果たすべく、需要増大前から増産体制を構築してまいりました。ロシュグループ全体での供給量は、パンデミック前の倍以上となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



しかし、アクテムラが WHO ガイドラインで推奨され、FDA から緊急使用許可が付与された中で、その需要は想定を超えるようになってきております。国内での供給不足懸念はないものの、世界各国ではかつてない増産体制でも供給不足の状態となっております。

そこで、低中所得国向けに特許権を行使しないということや、さらなるアクセス改善の取り組みを進めております。

事例：社会貢献活動の体系整理と優先分野(1)

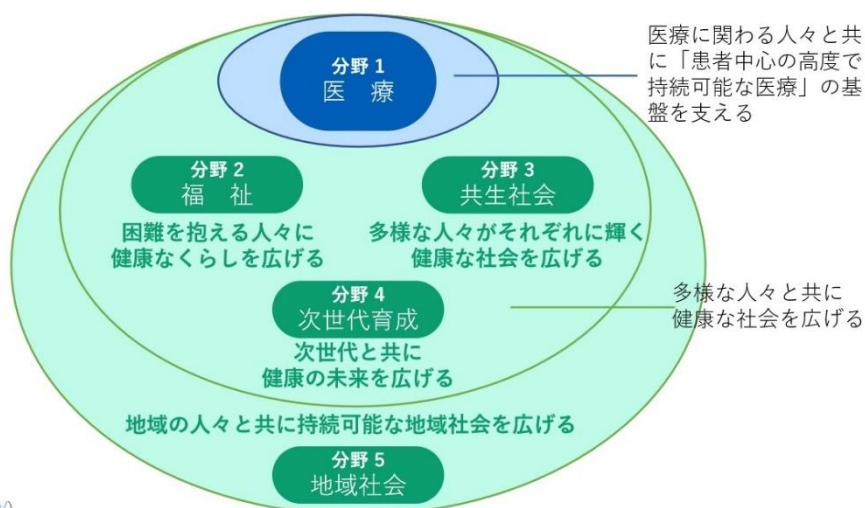
～社会貢献活動を通じて目指すもの～



社会貢献活動では「患者中心の高度で持続可能な医療」の基盤を支え、とともに健康な社会を広げていくための取り組みを、以下の5つの分野を中心に推進していきます。

- ・ ミッション実現に向けた社会貢献活動の考え方を明文化。
- ・ 「医療」「福祉」「共生社会」「次世代育成」「地域社会」の5分野を優先分野とし、社会的ニーズに対応。
- ・ 財務的な利益と直接結びつく事業活動は社会貢献活動に含まず、ミッション実現につながる社会課題の解決に貢献する活動と位置づける。

参考：社会貢献活動の方針
(<https://www.chugai-pharm.co.jp/sustainability/community/>)



11

続きまして、事例として、社会貢献活動についてお話をしてみたいと思います。

この社会貢献活動においても、社会との共有価値創造、ステークホルダーとの協働の観点から、これまでの活動をさらに一步推し進めるべく、社会貢献活動の体制整備を行いました。

これは社会貢献活動を通じて目指すことを明文化、ミッション実現に向けたストーリーある活動の推進、発信を通じて、ステークホルダーとの相互理解を深め、ともに活動していく土壌を広げていくことが狙いでございます。

医療に関わる人々とは患者中心の持続可能な医療、多様性を尊重する人々とは健康な社会を、そして地域の人々とは持続可能な地域社会を広げていくというふうに考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



事例：社会貢献活動の体系整理と優先分野(2)



～5つの優先分野では社会からの期待・要望の高い取り組みに注力～

分野 1 医療	「患者中心の高度で持続可能な医療」の基盤を支える	・医学・薬学領域の研究・教育の促進（東京生化学研究会の活動支援など） ・患者さんの治療やくらしのサポート（患者団体との協働、疾患啓発活動など） ・世界の人々の保健医療へのアクセスの改善（低所得国向け非感染性疾患支援など）
分野 2 福祉	困難を抱える人々に健康なくらしを広げる	・高齢者や身体の不自由な方のくらしの向上（在宅福祉移送サービスカー寄贈事業など） ・途上国の子どもたちや難民への支援（「Roche Children's Walk」を通じた支援活動など）
分野 3 共生社会	多様な人々がそれぞれに輝く健康な社会を広げる	・スポーツを通じた共生の推進（障がい者スポーツ普及活動など） ・文化活動を通じた共生の推進（障がいの有無に関わらない芸術・音楽・ダンスの活動支援） ・女性活躍の推進（「私らしく生きる」をテーマにした女性応援イベント等の協賛など）
分野 4 次世代育成	次世代と共に健康の未来を広げる	・バイオ/科学に対する興味・関心の醸成（バイオ実験教室の開催など） ・学生向けキャリア教育の推進（小中高生の会社訪問受入れ、学校への出前授業実施など） ・Webサイトを通じた学びの機会の拡大（バイオ、くすりに関する情報発信など）
分野 5 地域社会	地域の人々と共に持続可能な地域社会を広げる	・自然環境の保全（事業所の水源となる森林の保全活動など） ・地域コミュニティ活動の推進（事業所周辺の地域コミュニティ活動への参画など） ・災害被災地の復旧・復興（災害発生時の被災地支援活動など）

12

優先分野として設定したこの五つの分野ですけれども、世界からの期待・要望の高い取り組みに注力し、各分野で設定した目標を実現していきます。このスライドは取り組みの方向性と活動例を表しているものでございます。

一例ですけれども、分野1の医療においては、各部門で実施されている直接的な財務リターンを目的としない取り組みが、患者さん中心の持続可能な医療の基盤を支えるための取り組みに当たります。

具体的には、医学・薬学領域の研究、教育の促進、患者さんの治療や暮らしのサポート、世界の人々の保健医療へのアクセスの改善などです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



サステナビリティに関するガバナンス

～取締役会・経営会議での審議事項はサステナビリティ面が拡充～



取締役会での主なサステナビリティ関連議案 (2020年1月～2021年9月)

ガバナンスの側面

- ・株主総会の招集・議案、事業報告、計算書類など
- ・取締役・監査役候補者、指名委員会・報酬委員会委員の選定
- ・代表取締役、執行役員、参与の選任・解任
- ・取締役の報酬
- ・取締役会の実効性評価の実施、報告
- ・内部統制報告、**リスク管理報告**、IR活動報告
- ・政策保有株式の検証
- ・競業取引・利益相反取引の承認、報告
- ・改訂コーポレートガバナンス・コードの検証

社会・環境の側面

- ・**TOP12030の策定（成長基盤およびサステナビリティ関連）**
- ・**新生産設備建設計画、研究施設再編計画**
- ・**アクテムラ安定供給関連**
- ・人事制度関連報告
- ・**中期環境目標2030の策定**

経営会議での主なサステナビリティ関連議案 (2020年1月～2021年10月)

環境関連

- ・中期環境目標の内容・目標設定
(2020年1月、7月、9月、2021年1月)
- ・中期環境目標推進上の対策・進捗報告
(2021年7月(2回)、10月)

人財関連

- ・国内グループ会社の人財マネジメント改革、人事制度改訂
(2020年11月、2021年5月)

その他

- ・中外製薬企業年金基金の日本版スチュワードシップコード
への受け入れ表明
(2021年10月)

※ 下線は2020年に特に事前説明や審議を充実させた事項

13

続きまして、サステナビリティに関するガバナンスのお話に触れてみたいと思います。

このガバナンスの取り組みは、ガバナンスのモニタリングについても継続的な進化が必要であるという認識をしております。社会からの期待・要望の高まりを受け、取締役会ですとか、経営会議の審議事項は昨年よりも拡充をしております。

一つの例としましては、10月に中外製薬企業年金基金において、日本版スチュワードシップコードに賛同し、受け入れを表明すると、そういうこともさせていただきました。

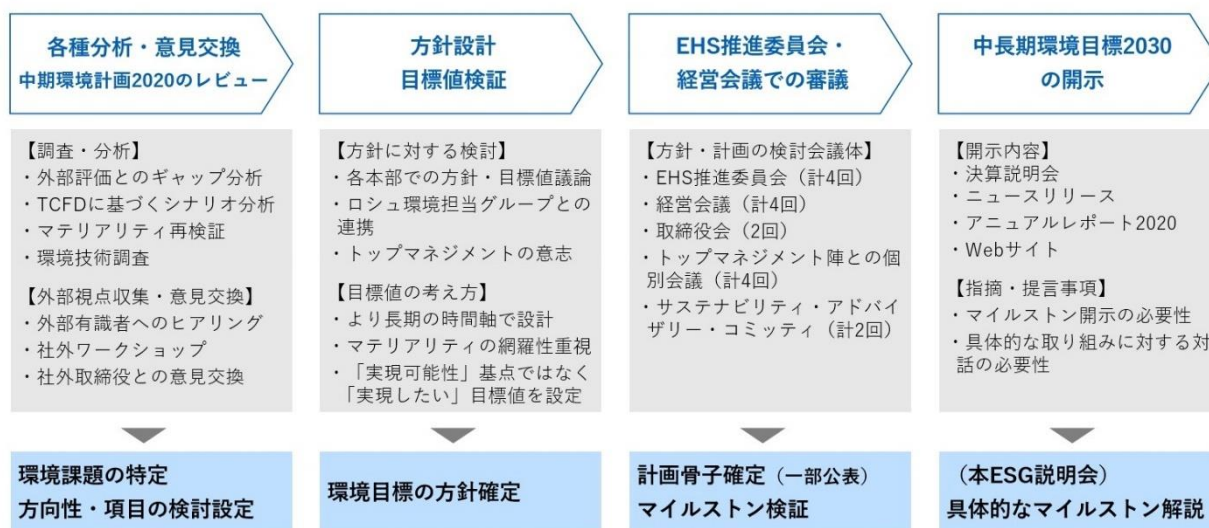
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



事例：中長期環境目標2030の策定フロー

～外部意見の取り込みと意欲的な目標設定～



14

もう一つの事例として、サステナビリティ側面でのガバナンスについてということで、これは今年の2月に公表させていただいた中期の環境目標2030の策定におけるフローでございます。

外部環境の分析や、社外取締役や外部有識者との意見交換などを踏まえて、方向性を定め、各本部及びロシュグループとの連携の下、目標を設定しました。

ここで目標値の設定については、実現可能性よりも、中外製薬として果たしたい、あるいは果たすべき水準という思想を重視し、意欲的な目標を設定をいたしました。先ほど申し上げましたCO₂排出ゼロというようなことでございます。

社内の会議体でも多く審議、議論を重ねて、数多くのイノベーションが必要になることも共有をいたしまして、各本部主体で具体的なマイルストンの設計ということも進めてございます。

この目標の達成には、私どもだけの社内努力ではできません。このCO₂排出量ゼロという新たな高い目標に向けて、新たなイノベーションを追求していくパートナーの方々の協働が必要になってございます。そのパートナー探しも、現在進めておるところでございます。

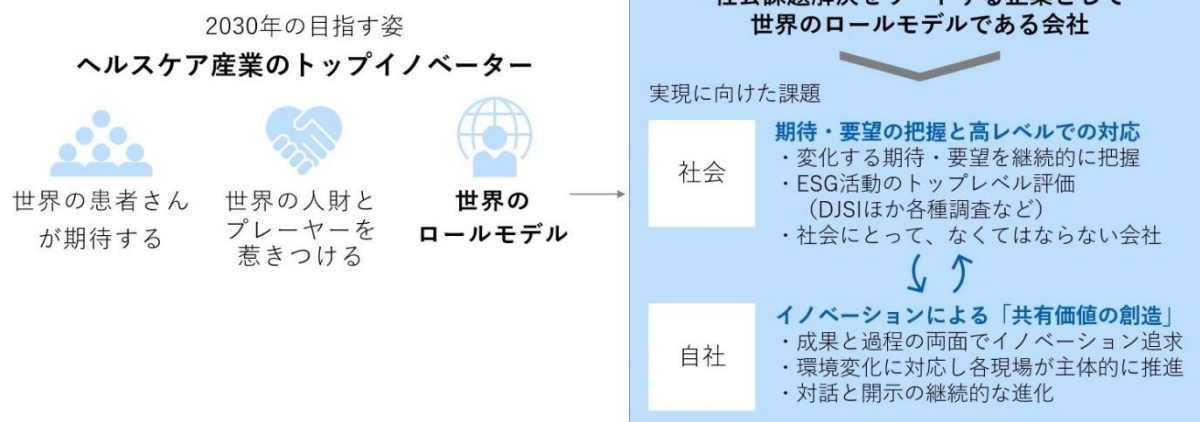
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



世界のロールモデルに向けて

～イノベーションによる「共有価値の創造」を根幹にPDCAサイクルを回す～



15

最後になりますけれども、私の締めめのページになります。私たちの目指すのは、ヘルスケア産業のトップイノベーターであり、サステナビリティの側面では、世界のロールモデルとなることを目標としております。

これは ESG の取り組みが成長戦略の中に組み込まれること、これが評価をされ、アウトプットも評価をされる、社会課題解決をリードする、そういう会社になりたいと思っております。

常に変化し続ける期待・要望を把握し、それに応えていくことにより、社会にとってなくてはならない会社でありたい、またあり続けたいと思っております。

またその期待・要望を踏まえ、私たちが共有価値の創造を実現していくためには、各機能、部門が主体となってイノベティブな気持ちを持ち、製品、サービスでのイノベーションはもとより、プロセスにおいても、日々の活動の気づきにより、創意工夫の積み重ねによるイノベーションの実現、これも重要であると考えております。

日々の一人ひとりの創意工夫が、各従業員の一人ひとりの満足感、達成感、充実感を醸成し、これによって、エンプロイーエンゲージメントも高まっていくのではないかと考えております。

最後になりますけれども、中外製薬 TOP I 2030 としての 10 年後、またその後の 20 年、30 年、50 年と、社会の課題の解決に貢献することにより、社会にとってなくてはならない、そういう企業でありたいと、あり続けたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。

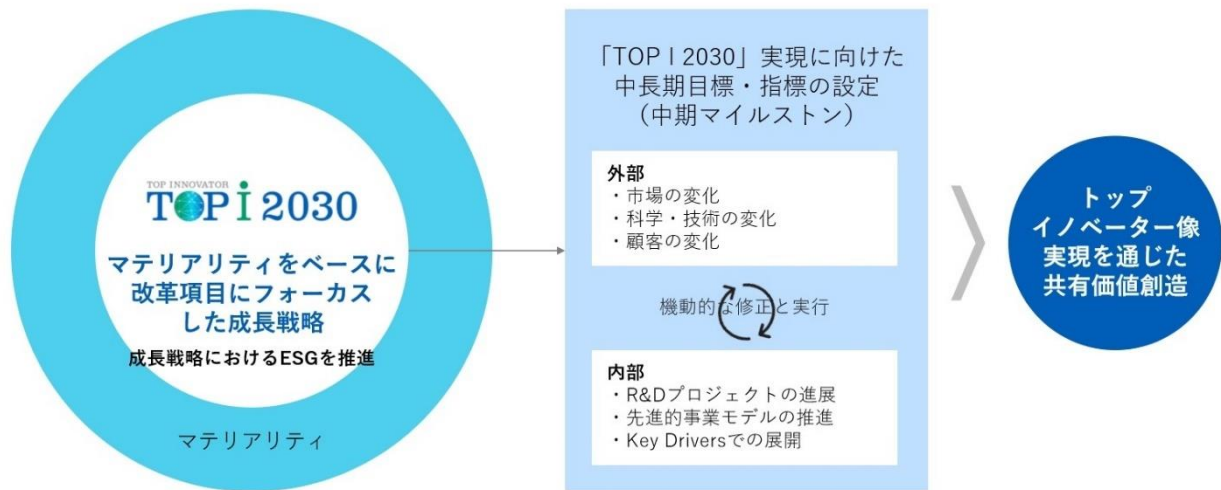
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



マテリアリティと成長戦略

～マテリアリティと「TOP I 2030」が連動し、成長戦略におけるESGを推進～



17

笹井：続きまして、上席執行役員 CFO の板垣より、マテリアリティと企業評価についてご説明申し上げます。

板垣：皆さん、こんにちは、板垣でございます。私からは、マテリアリティと企業評価と題しまして、3点ほどお話をさせていただきたいと思います。

まず1点目でございます。マテリアリティと成長戦略の関係についてでございます。当社のミッションにとって非常に重要な課題、これがマテリアリティでございまして、8分野、特定をしております。

それらは会社の成長と社会の持続的発展、これを両方実現するために必要なもので、25項目で構成されているといったことは、既に上野からお話があったとおりでございます。

そしてそのミッションに沿って、2030年に中外製薬がやりたい姿、これは世界のヘルスケア産業におけるトップイノベーターになると、こういうわけでございまして、その戦略がTOP I 2030にあります。

となりますと、マテリアリティは、当然このTOP I 2030の戦略として展開していくということでございます。前回の中計のIBI 21では、このサステナビリティの基盤の強化という独立した戦略課題として置いておりましたけれど、今回、会社の成長と社会の持続的発展と、こういったものを切り離して、別個の戦略、あるいは施策として推進していくこと自体が既に困難ではないかという

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



認識でありまして、このマテリアリティを持ついわゆる二つの特性を別々にしないということでございます。

例えば環境対策等、生産・製薬戦略、これを切り離して考えて、切り離して推進していくことはもう既にありえないということでございます。

したがいまして、この TOP I 2030 では、それぞれの機能戦略、改革の中に、このサステナビリティ、あるいは ESG に関する施策を成長戦略と一体化して展開、推進していくことにいたしております。

経営戦略の前提となるマテリアリティの整理



～ダブルマテリアリティの考え方に照らしたインパクトと時間軸の再検証～

- リスク分析（戦略／オペレーショナル）をもとにインパクトと時間軸を整理（リスク分析の内容はアニュアルレポート2020 P54参照）
- 欧州委員会のNFRD（非財務情報報告指令）およびCSRD(企業のサステナビリティ情報の報告に関する指令)案におけるダブルマテリアリティの考え方に照らして、当社マテリアリティを検証



18

マテリアリティの二面性、これはダブルマテリアリティと呼んでおりますけど、それにつきましてまとめてみました。

マテリアリティのこちらの左側に財務マテリアリティの側面と、右側に書いてございます環境・社会マテリアリティの側面、こういう二つの顔があるということでございます。

そしてそれぞれが与えるインパクトの対象ですね、あるいはそのインパクトの強度、またそのインパクトが発現するタイミングはそれぞれまちまちであります。

例えばサプライチェーン・マネジメントでありますと、製品製造の原価とか、回転率などの面で、短中期で主に企業の損益に影響を及ぼすわけでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



一方で、環境や人権などを含めまして、社会的課題の解決には、サプライチェーンとの協働が重要であり、どのような会社がサプライチェーンを構築していくかといったことが、長期にわたって社会の環境に与える影響が変わってくると、このようなことでございます。

そもそもの二面性を持つマテリアリティを企業活動の中で、この右側と左側に分けて、別個のものとして推進していくのは不合理ということでございます。

参考：これまでのマテリアリティ目標

～項目ごとに目標指標を設定～



項目	重要課題	2020年～2021年の指標		
持続可能な医療	革新的な医薬品とサービスの創出	・新製品発売・適応拡大数	・個別化医療に基づく開発プロジェクト数・製品数	
	患者ソリューション提供	・治療領域シェア	・顧客満足度	
	公正なマーケティング			—
	公正な価格			—
	医薬品の副作用マネジメント	・顧客満足度		
コーポレート・ガバナンス	製品の品質保証と安定供給			—
	コーポレート・ガバナンス	・取締役会の実効性評価		
	リスクマネジメント			—
倫理・コンプライアンス	情報開示と対話	・機関投資家／報道関係者向けESG説明会開催		
	コンプライアンス	・コンプライアンスモニタリング実施		
	行動規範	・国内全組織CCC・人権研修実施		
サプラチェーンマネジメント	公正な取引			—
	サプライチェーンマネジメント	・主要製造委託先のリスク評価実施		
地球環境	気候変動対策（エネルギーなど）	・Scope 1+2 CO ₂ 排出量	・Scope 1+2 エネルギー消費量	・サステナブル電力比率
	循環型資源利用（水、廃棄物など）	・営業車両総燃料使用量	・フロン類使用量	
	生物多様性保全（環境負荷低減）	・廃棄物排出量	・プラスチック廃棄物	・水消費量（取水量）
	環境マネジメントシステム	・有害化学物質使用量（SVHC）	・有害廃棄物排出量	
人財	従業員の働きがい	・検証項目および対象範囲拡大		
	従業員の能力開発	・有休取得率	・在宅勤務制度利用率	・社員意識調査
	ダイバーシティ&インクルージョン	・次世代リーダー候補者数		
	労働安全衛生の向上	・女性管理職比率	・女性マネジャー比率	
人権	人権	・就業中禁煙		
	臨床試験被験者の安全性	・委託先人権デューデリジェンスの実施		
社会貢献	社会貢献活動			—
	保健医療アクセスの向上	・プログラムごとに設定		
		・プログラムごとに設定		

19

こちらは8分野25項目のマテリアリティの管理指標を表したものでございます。本来であれば、今年が最終年度となりますIBI 21、3年固定の計画の中計でございますが、1年早く前倒ししております。

その時にモニターをずっとしてきた指標をここに書いております。マテリアリティをもう一度見直しましたけれど、結局マテリアリティ8分野25項目は変わらないといったことから、この指標についてもおおむね近いものであるとご理解いただければ結構です。

それぞれの具体的な目標につきましては、成長戦略の中期マイルストーンとしまして、次回の決算発表の時に示す予定でございます。

本日はこのマテリアリティの中から二つ、持続可能な医療に向けた開発、そして主に製薬部門におけます環境対策を取り上げまして、後ほどその具体的な内容、指標、あるいは目標などにつきましてご説明を差し上げたいと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

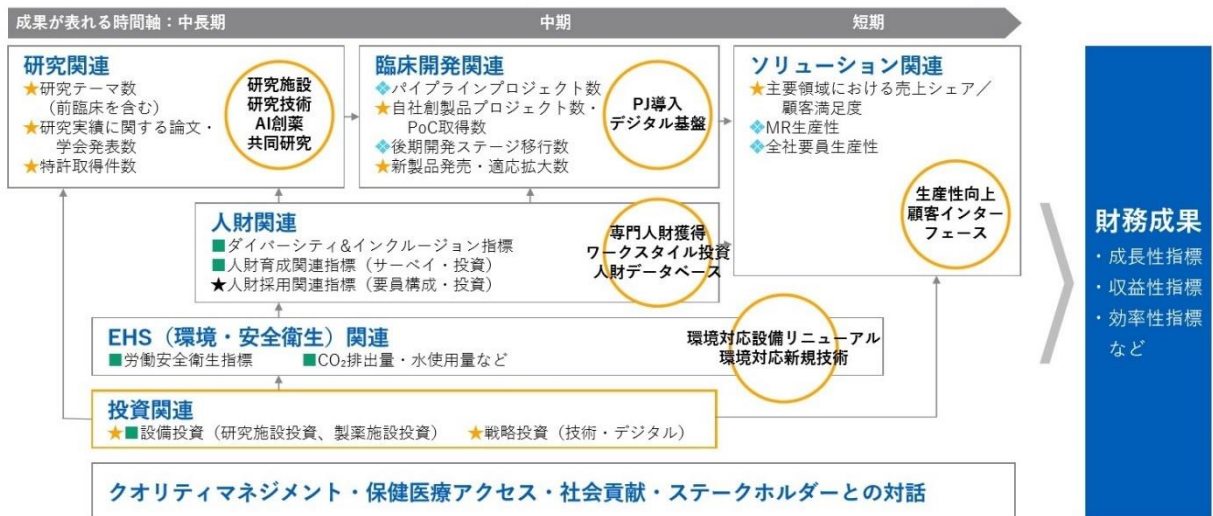


TOP I 2030における非財務指標

～資源配分と非財務指標の傾向～



○ : TOP I 2030における主な投資の内容 ★ : REDシフトによる直接的な影響指標
 ◆ REDシフトにおける生産性向上・機能強化による影響指標 ■ 成長基盤強化戦略での影響指標



20

さて、私からの2点目、非財務指標の話に移ります。

こちらのスライドは、TOP I 2030の改革課題を、財務成果として表れる時間の長さに応じてそれぞれプロットしたものでございます。そしてオレンジの円の中には、重点的に投入、資源投入していく内容、また四角の中には、重要な管理指標を書いてございます。

例えば研究関連ということで、こちら左の上のほうに書いてございますが、成果、財務成果に結びつくまでには少し時間がかかるといったことで、右の財務成果が一番離れたところにプロットされてます。

そしてオレンジ色の円の中には、重点的に資源投入していきます新研究所の建設、中分子などの新モダリティ技術、AI創薬、そしてオープンイノベーションなどの共同研究などが書かれております。

また、指標としましては、研究テーマ数、論文・学会の発表数、特許の取得件数といったものを挙げております。

この研究関連以外にその他の改革課題としまして、臨床開発あるいはソリューション、下のほうを見ていただきますと、人財、また環境・安全衛生といったESG関連もそれぞれプロットしております、相互に影響しながら、または相互に有機的に繋がりながら、右側の最終的には財務成果に繋がっていくことになります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

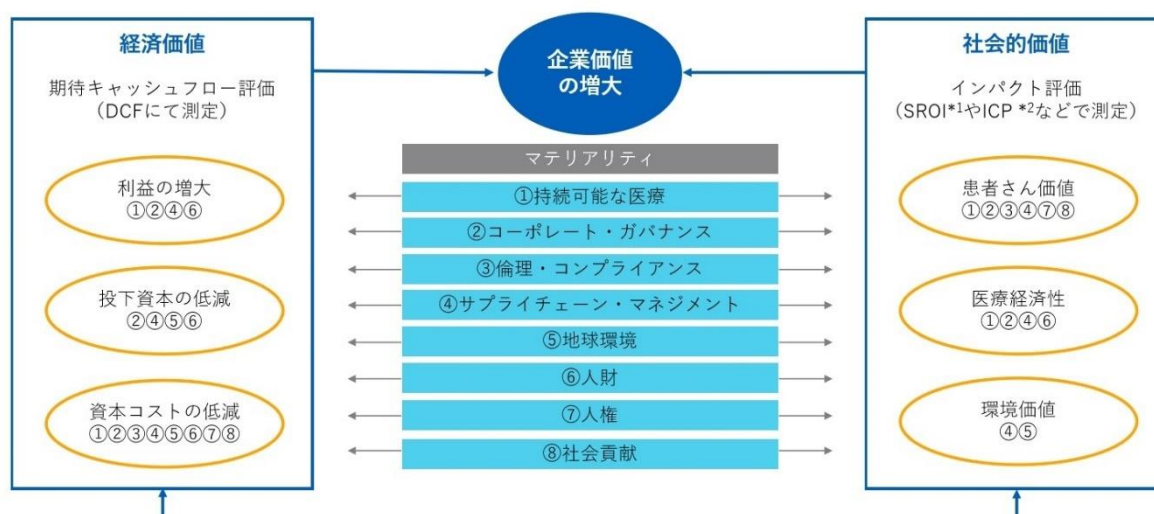


一番下のほうを見ていただきますと、例えばこの保健医療アクセス、また社会貢献といったもの、こちらでも ESG 関係の課題がございますが、これは直接右の財務成果のほうに線が引かれてございませんが、これはどういったことか。

ESG の取り組みと企業価値の関係につきまして、次のスライドでもう少し説明させていただきたいと思います。

ESGの取り組みと企業価値

～企業価値 = 経済価値 + 社会的価値～



*1 SROI : Social Return on Investment、社会的投資収益率 *2 ICP : Internal Carbon Pricing、社内炭素価格

21

そもそも私どもが考えます企業価値というものは、経済価値と社会的価値、この二つで構成されているといったものでございまして、目先の経済価値だけを追い求めて、この社会的価値を軽視すれば、サステナブルな企業価値を上げていくことはできないということでございます。

そして真ん中に八つのマテリアリティがございます。それぞれの取り組みは、経済価値と社会的価値に影響を及ぼし、最終的に企業価値に繋がっていくということで、これがマテリアリティの二面性と、ダブルマテリアリティということで説明したとおりでございます。

そして前のページで、この財務成果に直接線が引かれていないといったものは、この ESG の取り組みの中でも、社会的価値に非常に多く影響を及ぼし繋がっているものであるということでもあります。

ここでまた重要なことは、この下に線が相互に引かれておりますけれど、経済価値と社会的価値、それぞれが影響を及ぼし合っているということございまして、例えば社会的価値の高い会社は、

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



資本コストが安くなり、結果、経済価値が上がり、企業価値も上がっていくと、こういった関係にあると考えております。

左の経済価値、こちら売上、利益、投下資本、資本コスト、こういったもので表れてきまして、ディスカунテッド・キャッシュフローという手法で測定されるわけでございますよね。

右の社会的価値、こちらは、例えば顧客満足、あるいは財政、コスト負担とか、環境などの形で表れてきまして、これらは、Social Return on Investment、あるいは Internal Carbon Pricing などといった最近新たな手法で社会的価値が測定され始めております。

昨今の ESG 投資の拡大、あるいは IFRS などの動きなどから見てまいりますと、この統一的な社会的価値の測定方法、あるいは開示基準といったものも確立されてくると、そんな先の話でもないのではないかなと考えております。

事例：人財関連指標①

～TOP I 2030（成長基盤）における人・組織の戦略とモニタリング指標～



新人事制度徹底運用

- 成長戦略実現に向けた適所適材の推進
- 次世代リーダー候補者の戦略的配置による育成の加速
- 果敢なチャレンジを推奨する組織風土の醸成

(モニタリング項目) ・次世代リーダー候補者数
・上司と部下の1on1(Check in)実施率

高度専門人財の獲得

- 新たな採用手法構築によるデジタル・サイエンス人財の獲得
- デジタル人財の社内発掘と育成強化
- i-Learning(ラーニングマネジメントシステム)による自律的な学びの実践

(モニタリング項目) ・必要人財充足率
・i-learningの活用率

「新しい働き方」実現

- 新しい働き方を通じた活躍社員の増大
- 在宅勤務とサテライトオフィスに基づくテレワーク制度の導入
- 働きがいと生産性を高める柔軟性の高い働き方の実現

(モニタリング項目) ・社員意識調査(活躍社員)
・出社とテレワークの比率

D&Iの継続的な推進

- D&I推進によるイノベーション文化の醸成
- インクルージョンを促す3つの行動の浸透、定着
- 女性マネジャーの登用促進

(モニタリング項目) ・女性管理職比率
・社員意識調査(D&I)

22

概念的、あるいは理論的なお話が続きましたので、ここで少し具体的な内容に振りたいと思います。

20 ページでお示した改革課題の中から、人財開発、人財関係のお話を取り上げたいと思います。

TOP I 2030 のIは、イノベーターのIと同時に、私のIということで、成長基盤の強化戦略の中でも、特に人財関連は重点課題の一つに取り上げております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



人財関連では、ご覧のこの四つですね、左上から言いますと、昨年導入しております適所適財を基本としました新しい人事制度の徹底運用。それからデジタル・サイエンスの分野におきます高度専門人財の獲得、育成。それとリモートを主体としました新しい働き方の実現。最後に、ダイバーシティイノベーションの継続的な推進、この四つを重要な取り組みのテーマにさせていただきます。

そしてそれぞれのテーマに、例えば上司と部下が 1on1 の実施率、あるいはテレワークの比率、また女性管理職の比率など、青字で書かれているようなモニタリング指標を定めております。

事例：人財関連指標②

～TOP I 2030推進による趨勢（REDシフトと人財戦略）～

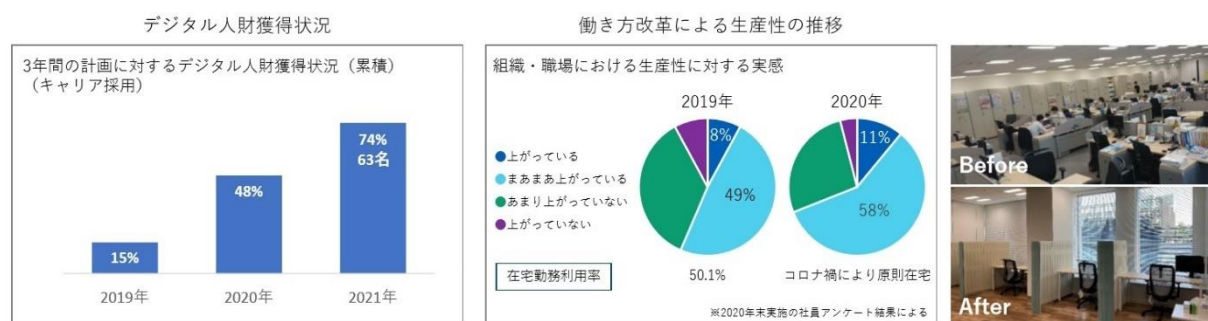


【高度専門人材の獲得】

- TOPI 2030で求められる人財像可視化と採用戦略の実践により、デジタル人財・サイエンス人財の着実な採用が実現
- 社内サーベイによるデジタル人財発掘、中外デジタルアカデミー創設により社内で年間100名以上のデジタル人財を育成中

【「新しい働き方」実現】

- COVID-19の影響下、在宅勤務が急速に進む中、生産性は維持・向上傾向を継続
- 生産性と働きがいのシナジーを生み出すテレワークとオフィスワークの最適な組み合わせを実現



23

例えば、この高度専門人財の獲得といった点におきましては、デジタル人財、あるいはサイエンス人財がどの部署、どの部門で、どのぐらいいるのか、そしてどのぐらいこれから必要なのかといったものを可視化しまして、採用計画あるいは育成プランに落とし込んでございます。

キャリア採用につきましては、左下のグラフにお示ししているとおり、3年間で 85 名の優秀な専門人財を採用してこようと、こういう計画を立てて、ちょうど9月までで、今74%の進捗、すなわち 63 名のキャリア採用を果たしております。

この特にデジタル人財ですね、売り手市場といったことで、なかなかコンペティティブな市場でございすけれど、かなり多くの有用なキャリア人財を採用してございます。

また社内の育成におきましては、中外デジタルアカデミーを今年創設しまして、年間 100 名以上のデジタル人財を育てていくということでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



次の新しい働き方の実現につきましては、在宅勤務体制にシフトしておりまして、生産性の維持・向上を両立する様々な取り組みを進めてございます。

社内アンケートを取りまして、約 69%もの人が生産性の向上が実現しているといった回答をいただいています。

またオフィスも、本社や支店、営業支店を中心に、完全フリーアドレス、自ら働くスタイルを選択できるようなオフィス設計にしました。

結果、オフィススペースも 30%から 40%縮小できまして、副次効果としまして、賃料の削減といったような効果もございました。

これまでの課題分析による改善

～ギャップ分析を活用した課題抽出とPDCAサイクル～



24

最後、私からの3点目としては、評価分析と課題対応についてでございます。

こちらの図では、過去4年間の評価、課題、そして対応状況を一覧にまとめてみました。当社では、各種のインデックス評価を毎年詳細に分析しまして、足りない点、あるいは社会からの要請が高まっている点といったものを洗い出しております。

そしてそれぞれを戦略的な重要性和緊急性に照らし合わせまして、各年度の戦略、重点課題に落とし込み、対応策を選定・実行に移しております。

こうしたPDCAサイクルを回すことで、われわれの、あるいは一人ひとりの意識も、行動の質も、そしてその結果としての成果の評価も高まってきていると認識してございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ESGに関する外部評価への対応

～分析結果をもとに課題を抽出～



○継続高位 △継続低位 ↗評価上昇 →評価変化なし ↘評価下降

	2020年～2021年の注力取り組み	2020年評価	2021年評価
マテリアリティ	・マテリアリティ目標等の開示充実	↗	○
コーポレート・ガバナンス	・女性取締役の選任 ・取締役会の実効性評価の充実（第三者評価） ・役員の業績連動報酬に係る指標と決定プロセスの開示 ・指名委員会・報酬委員会の委員開示 ・情報セキュリティ・サイバーセキュリティガバナンスの充実	→	→
リスクマネジメント	・リスク要因の見直しと開示充実 ・リスク管理指標の役員報酬への反映	↗	○
サプライチェーンマネジメント	・PSCIに準拠したサプライチェーン・マネジメントの進捗と取り組みの開示充実 ・サプライチェーン・マネジメントプロセスの体系的な開示 ・委託業者の労働安全指標集計	↗	○
地球環境	・環境中長期計画・目標の策定 ・気候変動/水リスクの感度分析、財務インパクト開示 ・指標の集計範囲拡大、第三者保証取得の範囲拡大	○	○
人財	・人財の採用と定着 ・従業員の労働安全衛生に関する指標の第三者保証受審	○	○
人権	・人権課題のリスクマップ作成 ・人権課題への取り組みの体系的な開示	↗	↗
社会貢献	・社会貢献活動の推進体制の開示	↗	↗
保健医療アクセス	・現地の医療課題・ニーズに対応した取り組みの拡充 ・医薬品へのアクセス改善戦略、コスト負担への対応	↗	→
税務戦略	・税務ポリシーの新規策定と開示	↗	○

25

こちらの表は、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスの評価によるギャップの分析、その対応をまとめたものです。

マテリアリティ目標の開示、リスク分析、あるいはサプライチェーンでのデューデリジェンス等々、いろんなところにわれわれ、注力した結果、2020年の評価では、ご覧のとおり、矢印が上を向いているのがいくつかございますけれど、非常に高い水準の評価を獲得することができました。

また2021年、実はこれ先週の土曜日に結果をもらったばかりなので、十分な分析までは至っておりませんが、さらに上がっているもの、あとは最高水準の評価をいただいているもの等々がございます。

一部横で評価が維持されているものもございます。詳細な分析はこれからですが、ロシュとのビジネスモデルなどで一部の制約があるような項目が横ばい評価になっている可能性もございますけれど、改善できる点があれば、引き続き対応を図っていききたいと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ESG情報開示の充実に向けて

～当社固有のESG情報の開示充実にも注力～



新たに開示したESG情報の一覧

- 「社会からの期待や要望の高まり」と「戦略の進捗共有」の観点からESG情報の開示充実に注力
- その結果、外部ESG調査機関からの評価も向上（DJSI/FTSEなど）
- 今後の課題として、第三者保証の受審拡大と、Sustainalyticsへの対応も強化

社会からの期待や要望の高まり 戦略の進捗共有	ガバナンス関連	- 取締役会・経営会議での主な審議事項 - 取締役会の実効性評価（結果と改善状況） - 取締役／監査役の専門性と経験 - 役員の業績連動報酬に係る指標と決定プロセス - リスクと対応方針（リスクシナリオ・影響度・リスクアベタイト方針）
	社会性関連	- サプライヤー評価（目標、実施件数、評価結果、改善状況） - 保健医療アクセスの向上（基本方針、取り組みの進捗） - 社会貢献活動の基本的な考え方 - 製品の品質保証（リコール件数） - 従業員報酬（役職／性別ごとの平均値）
	環境関連	- 新中期環境目標の項目増加（前中期環境目標4項目→10項目） - CO₂排出量削減へのロードマップ - TCFD提言に基づく気候変動/水リスクの感度分析、財務インパクト
	人財関連	- 社員意識調査結果（エンゲージメント、社員を活かす環境） - デジタル人財の獲得状況、社内人財による充足率 - 人財育成関連指標（従業員1人当たり教育研修費） - D&I関連指標（女性管理職比率、男性の育児休暇取得率など）

26

また前回のこの ESG 説明会で皆様方から、特に ESG 情報の開示の充実をとったご要望を頂戴しておりました。ご覧のとおり、ガバナンス関連から人財関連まで、17 項目の新たな開示をいたしましたので、ご確認いただきいただければと思います。

ESG 関連情報の開示につきましては、本当に世の中に様々な枠組みといったものが乱立しております。そういった中で、他社比較、あるいはその評価自体に当たってもまだまだ課題がございますけれど、COP26 におきまして、IFRS 財団のほうから、基準審議会の設立、あるいは報告基準のプロトタイプの公表などがございまして、今後統一化の兆しが見えてきてございますので、動向を引き続き注視してまいりたいと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



課題分析を通じたサステナブル成長と今後の方針



～世界のロールモデルに向けた進化～

- ギャップ分析によりグローバルレベルの評価を獲得、その過程で各部門の意識向上／体制整備も進展。
- 今後は、「世界のロールモデル」に向け、中外製薬独自の取り組みを推進。



27

最後のページになりますが、外部からの公平公正な評価は、私どものサステナビリティ、あるいはESGに関する戦略構築、あるいは活動水準の向上に大変役立っております。社会からの期待・要望もますます高度化しておりますので、そうした変化に機敏に対応、アジャイルに対応していくことが肝要だと認識しています。

またご要望や課題にパッシブに対応していただくだけではなく、当社ならではのイノベティブな取り組みを進めていながら、社会課題解決をリードする世界のロールモデル企業と言われるように、今後も経営戦略に一体となったESGの取り組みを推進してまいりますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



開発における患者さんとの共有価値

～「TOP I 2030」の重点施策による価値向上～



*1 QOL: Quality of Life *2 M&S: Model & Simulation *3 RWD: Real World Data

29

笹井: 続きまして、執行役員臨床開発本部長の草野より、持続可能な医療に向けた開発についてご説明申し上げます。

草野: 臨床開発本部の草野でございます。私からは、持続可能な医療に向けた患者さんとともに歩む臨床開発について、お話をさせていただきたいと思います。

臨床開発におけます TOP I 2030 は、患者さんとの共有価値を最大化することを目指してございます。臨床開発におけるここに挙げました重点施策は、いずれも患者様にとりまして大変大きな価値があり、また、弊社の企業価値向上におきましても、大変大きく貢献できるものと思っております。

われわれ中外製薬は未だに満足のいく治療薬のない疾患に果敢に挑戦してまいります。

また、臨床開発の成功確率を向上させることによりまして、臨床試験自体の規模を小さくし、治験に取り組まれる患者さんの数をできる限り少なくすることに挑戦してまいります。

さらに、デジタル等を用いた開発モデルの革新によりまして、上市までのスピードを向上させ、1日でも早く患者様に革新的な医薬品を届けられるように努力を続けてまいります。

そして、承認取得のみを目指すというのではなくて、デジタルバイオマーカー等を用いて、臨床試験の中で患者様の日々のクオリティ・オブ・ライフ改善を目指し、患者さんにとりまして、本当の意味での治療効果、こういったものを評価していきたいと考えてございます。

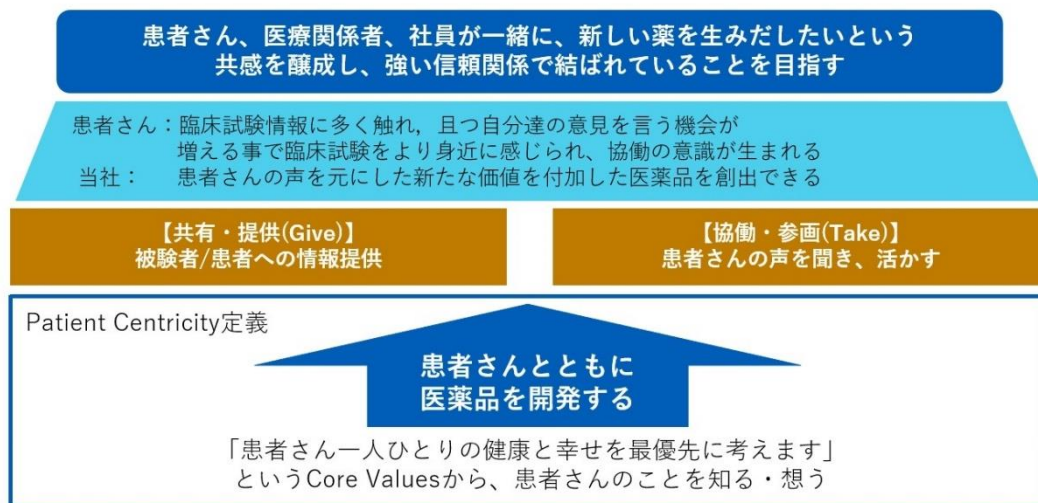
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



開発におけるCore Values: Patient Centricity

～「患者中心」を追求することで、10年後のありたい姿を実現～



30

中外製薬の臨床開発におけます Core Values、これは患者さん中心、Patient Centricity と定義してございます。

われわれが抱く Patient Centricity とは、患者さんとともに医薬品を開発するといったコンセプトでございます。われわれは、できる限り患者様へ情報提供を行ってまいります。患者さんに臨床試験をより身近に感じていただきたいと思ってございます。

一方で、われわれとしましては、患者さんの声を真摯に聞きまして、それを臨床試験に生かすよう努力してまいります。すなわち、患者さんと一緒に新しい薬を生み出していく。そんな姿を目指してございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



患者さんと歩む臨床開発

～患者さんは「パートナー」～



- 臨床試験の一連のフローに患者さんに関わっていただくことで、患者さんと協働のプロトコルを設計
- 最近の被験者アンケートでは「会社や周りに自分の病気を知ってもらいたい機会」と治験参加に前向き



31

中外製薬の臨床試験は、常に患者様と歩んでまいります。治験開始前には、対象となる疾患の患者さんに調査を行いまして、アンメットニーズの把握に努め、プロトコルに反映してまいります。

治験が始まると、動画などマルチメディアを用いて、試験内容をわかりやすく説明するeConsentを開始いたしました。

また患者さんにサンクスレターを配布いたしまして、患者さんとともに医薬品の開発を進めていきたいという旨を伝えるようにしております。

治験期間中には、デジタルバイオマーカーを積極的に取り入れ、患者さんにとっての True Endpoint を実証してまいります。

安全性評価におきましては、患者さん視点での評価を取り入れてございます。治験が終了した際には、Layperson Summaryとして患者さん向けの報告書を作成してございます。そして治験に参画いただきました患者さんへアンケートを行い、次の臨床試験へ反映してまいります。

中外製薬の臨床試験は、単に承認取得を目指すのみではなく、臨床試験の一連のフローに患者さんに関わっていただくことで、患者さんにとって新たな付加価値を付けられるように努力してまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



これまで治験とは、患者さんにとりましてあまり良いイメージがなかったんですが、最近の被験者アンケートでは、会社や周りに自分の病気を知ってもらいたい良い機会と、治験参加に前向きに捉えている患者さんも増えてまいりました。

事例：子宮内膜症でのデジタルソリューション



～診断や治療上の課題となっている「痛み」を客観的かつ持続的に測定する方法の開発～

- 課題：**
- ・ 痛みの評価は主観的である
 - ・ 痛みの強さや持続時間などを正確に伝えることが困難
 - ・ 通院による診察では、経時的な痛みの変化を適切にとらえることができない

- 解決方法：**
- ・ 客観的かつ連続的で持続的な痛みの指標を取得
 - ・ 新規バイオマーカー構築による疾患理解の推進と患者負担の軽減（精神面、通院による時間/コスト）
- 検討状況：**
- ・ 子宮内膜症患者を対象とする観察研究を実施し、客観的痛み評価法を開発中(Biofourmis社と共同研究)*1
 - ✓ ウェアラブルデバイス (Empatica社 E4®)*2でバイタルデータ（心拍数、血液量、皮膚温度等）取得
 - ✓ スマホアプリで患者さんによる痛みの評価（NRS: Numeric Rating Scale/数値評価スケール）取得
 - ✓ 得られたデータをアルゴリズム解析にて“Pain Index”構築
 - ✓ “Pain index”と患者さんによる痛みの評価（NRS）を比較検証



32

取り組みにつきまして、少し事例を紹介させていただきます。

子宮内膜症における一般的な評価指標は、患者さんが訴える痛みでございます。しかしながら、この痛みの評価は大変主観的であると言われてございます。患者さんそれぞれで感じ方が異なり、また痛みを表現する言葉もたくさん存在することから、痛みの強さや持続時間などを正確に医師に伝えることが困難とされてございます。

またこれまでのように2週間にいっぺん、あるいは月に1回の通院による診察では、経時的な痛みの変化を適切に捉えることができません。そこで、デジタルバイオマーカーを用いまして、客観的かつ持続的に痛みを測定する方法を開発してございます。

研究内容は、子宮内膜症の患者様にウェアラブルデバイスを装着していただきまして、心拍数や血液量等のバイタルデータを取得してまいります。一方で、スマホアプリで患者さんに痛みを数値的に評価いただいております。

これら得られたデータを、アルゴリズム解析を行うことによりまして、痛みの指標、Pain Indexを構築し、患者さんによる痛みの評価と比較検証してまいります。現在解析を実施している最中ですが、うまくいけば、この手法を新薬の臨床試験の中に取り入れていく予定でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



客観的かつ連続的で持続可能な痛みの指標、デジタルバイオマーカーを構築できれば、患者さんの精神面や通院による時間、コストの負担軽減が大いに期待できるものと思っています。

Decentralized Clinical Trial (DCT) への取り組み

～医療機関への来院に依存しない臨床試験手法～



Patient Centric

- 治験参加の負担減少
選択肢拡張（在宅/来院）による心理的負担軽減
- 治験へのアクセス向上
来院・病院滞在に対する時間的制約減少
- エンゲージメント向上
訪問看護、オンライン診療等のDCT手法の導入とともに、新たな機能や仕組み・システムの導入による試験へのエンゲージメント向上

試験の効率化

- 治験の期間短縮
登録期間短縮、リアルタイムでデータ入手
- データ品質/量向上
ダイレクトデータ、リアルタイムデータ増、リテンション向上によるデータ不足リスク回避と一定以上の脱落による症例追加リスク回避

従来の臨床試験



医療機関の来院に依存しない臨床試験（DCT）



医療機関の来院に依存しない臨床試験（DCT、混合型）



出典：日本製薬工業協会『医療機関への来院に依存しない臨床試験手法の導入及び活用に向けた検討』

33

もう一つの事例は、Decentralized Clinical Trial への取り組みです。

Decentralized Clinical Trial とは、医療機関への来院に依存しない臨床試験を意味してございます。従来の臨床試験は、患者様が医療機関を訪問し、医師と面談して、診察、検査、投薬が行われてございました。

将来的には患者さんの自宅でオンライン診療、あるいは医師、看護師が患者さんの自宅を訪問して、検査はデジタルデバイスを用いて、データをダイレクトに病院に転送される。治験薬も患者様の自宅に配送される、そんな臨床試験が期待されてございます。

現在では、各国の規制要件を確認しつつ、弊社のように、致死的な疾患を取り扱っている場合は、すべての患者さんが自宅で臨床試験を完結するのではなく、来院と自宅の混合型から始めてみようと思っております。

この試験手法は、患者さんにとりましては来院する回数が減ることで、心理的、時間的制約の軽減に繋がると思っております。

一方、弊社にとりましては、臨床試験に参加いただける患者さんが増え、またデータをダイレクトに、かつ、リアルタイムに取得することができ、データの欠損、あるいは患者さんが試験から脱落

サポート

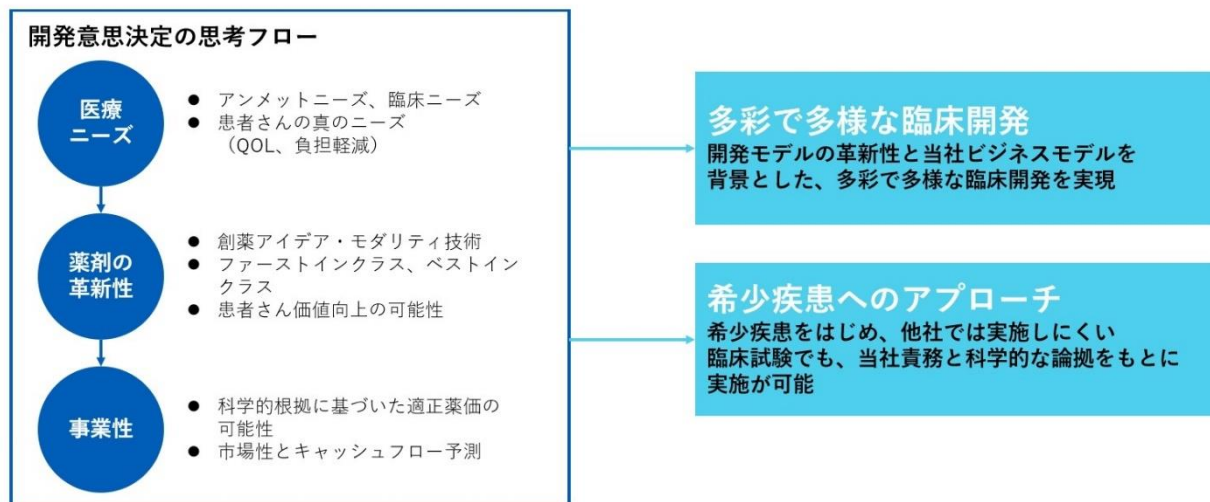
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



してしまうリスクを軽減することが期待できます。これにより臨床試験の期間が短くなり、臨床試験の質の向上も期待できると考えてございます。現在いろいろな規制要件を確認しながら、国内外で実施する準備を始めているところでございます。

患者さん価値の側面での臨床開発の特徴

～優れた薬剤候補を患者さん価値につなげる～



34

このように中外製薬の臨床試験はデジタルバイオマーカーや Decentralized Clinical Trial を導入するなど、開発モデルの変革に挑戦してきてございます。

一方で、弊社のビジネスモデルである豊富なパイプラインを持つロシュ品と、革新的な自社創薬品、両輪を扱ってございます。いずれもファーストインクラス、ベストインクラスを目指して、開発していくため、多彩で多様な臨床開発を実施しているといったところが弊社臨床開発の特徴とっております。

また、医療ニーズや社会的責務を踏まえまして、あまり他社では実施しにくいと思われるような希少疾病、こちらの開発も継続的に続けているといったところが特徴かと思われます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



多彩で多様な臨床開発

～患者さんと医療にとって最適で柔軟な臨床開発を志向～



多彩な 臨床試験スタイル	- Global/Local - Double blind/Open - Adaptive Design	- アンブレラ/バスケット/プラットフォーム - RWD*1との比較 - 臨床薬理	企業/医師主導
多様な オペレーションモデル	- ロシュ/中外オペレーションモデル - CCRC*2/CRO*3協働 - フルアウトソース	- 他社との共同開発 - 複数疾患同時開発	
多岐にわたる モダリティ	- 低分子 - 中分子 - 抗体	- 核酸医薬 - 再生医療 - 遺伝子治療（今後臨床入りが期待）	
多種の 疾患領域	- がん - 免疫 - 感染症	- 眼科 - アルツハイマー - 神経免疫・筋・変性・発達障害	- 血友病 - 代謝 - 希少疾病
多才な 人財	- 多国籍人財 - 男女比→概ね50:50 - Roche, Genentech, 海外関連会社との人財交流・育成	キャリア比率→概ね30%	

*1 RWD: Real World Data *2 CCRC: Chugai Clinical Research Center Co., Ltd. (中外臨床研究センター) *3 CRO: Contract Research Organization (開発業務受託機関)

35

まず多彩で多様な臨床開発の背景でございますが、ご存知のとおり、弊社の研究は技術ドリブンであり、どのような疾患領域の新薬候補が出てくるかわかりません。

また戦略的アライアンス提携先のロシュ社も、がん、免疫、CNS 等、得意としている分野は、疾患領域はあるものの、豊富なパイプラインと多岐にわたるモダリティの開発を進めております。

したがいまして、われわれは、いかなる新薬の開発にも柔軟に対応ができるように、多彩な臨床試験スタイルに挑戦し、多様なオペレーションモデルを採用してございます。

また、多岐にわたるモダリティを取り扱い、多種の疾患領域にアプローチしてございます。これらは弊社の多彩な人財によりまして、患者さんと医療にとって最適で柔軟な臨床開発を行えるよう努力を続けてございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



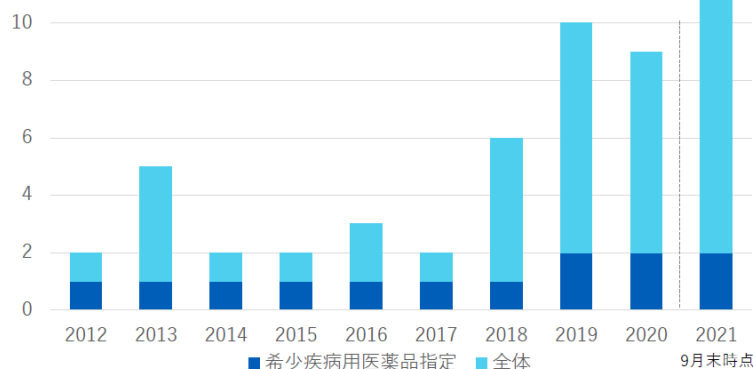
希少疾患のアプローチ

～技術・サイエンスドリブンだからこそその責務～



- 過去10年にわたり計13品目の希少疾病用医薬品指定

新製品発売・適応拡大数^{*1}／希少疾病用医薬品指定^{*2}



^{*1} FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイル、FoundationOne® Liquid CDx がんゲノムプロファイルを含む
^{*2} 希少疾病用医薬品指定：対象患者数が本邦において5万人未満であること、医療上特にその必要性が高いものなどの条件に合致するものとして、厚生労働大臣が指定

過去10年に発売した希少疾病用医薬品

承認/発売年 ^{*3}	製品名	適応症
2012年	ブルモザイム	嚢胞性線維症における肺機能の改善
2013年	アバステン	悪性神経膠腫
2014年	アレセンサ	ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌
2015年	ゼルゴラフ	BRAPV600遺伝子変異を有する悪性黒色腫
2016年	アバステン	子宮頸がん
2017年	アクテムラ	大型血管炎
2018年	ヘムライブラ	インヒビターを保有する先天性血液凝固第VIII因子欠乏患者における出血傾向の抑制
2019年	テセントリク	小細胞肺癌
2019年	ロズリートレク	NTRK融合遺伝子陽性の局所進行又は遠隔転移を有する固形がん
2020年	アレセンサ	ALK融合遺伝子陽性の未分化大細胞リンパ腫
2020年	エンスプリング	視神経脊髄炎及び視神経脊髄炎関連疾患
2021年	エブリスディ	脊髄性筋萎縮症
2021年	ゴライビー	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫

^{*3} 希少疾病用医薬品指定の承認を取得し発売した年。承認時点で未発売の製品は発売年が基点。

36

希少疾病についてでございます。このスライドは、過去10年間の各年におけます新製品発売数、並びに適応拡大数を示したものでございます。

今年2021年は9月末時点での数字となります。薄い青色が新製品発売数、及び適応拡大数全体の数で、濃い青色が希少疾病医薬品の発売数でございます。

ご覧のとおり、過去10年間、毎年1から2個の希少疾病において継続的に承認を取得しており、発売してございます。また希少疾病の疾患領域に関しましても、がんのみに限らず、多種にわたる疾患領域となってございます。

技術・サイエンスドリブンの中外製薬は、ロシュグループとともに、そして患者様とともに、希少疾病を含む未だに治療薬のない疾患に対し、今後も多彩で多様な臨床試験をしながら、果敢に挑戦していきたいと考えてございます。私からは以上です。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



中期環境目標2030の概要



～気候変動対策は2050年目標も設定した中長期計画～

- 「気候変動対策」「循環型資源利用」「生物多様性保全」の3つを重点テーマに設定
- 中長期視点でマテリアリティへの対応を強化すべく10項目の中期目標設定（前中期環境目標は4項目）
- 気候変動対策はより長期な2050年目標（CO₂排出量ゼロ）を設定

重点課題	項目	KPI（基準年2019年）		
気候変動対策 (地球温暖化防止)	Scope 1+2 ^{*1} CO ₂ 排出量	2025年：40%削減	2030年：60-75%削減	2050年：排出ゼロ
	Scope 1+2 ^{*1} エネルギー消費量	2025年：5 %削減 ^{*2}	2030年：15%削減 ^{*2}	
	サステナブル電力比率	2025年：100%		
	営業車両総燃料使用量	2025年：35%削減	2030年：75%削減	
	フロン類使用量（基準年2020年）	2025年：25%削減	2030年：100%削減	
循環型資源利用 (省資源・廃棄物対策)	廃棄物排出量	2025年：5%削減 ^{*2}	2030年：10%削減 ^{*2}	
	プラスチック廃棄物	2025年：5%削減 ^{*2}	2030年：10%削減 ^{*2}	
	水消費量（取水量）		2030年：15%削減 ^{*2}	
生物多様性保全 (環境負荷低減)	有害化学物質使用量（SVHC ^{*3} ）	2021年以降、開発候補となるすべての自社品は、商用生産までにSVHCリスト化合物を使用しない製造プロセスを構築する		
	有害廃棄物排出量	2025年：5%削減 ^{*2}	2030年：10%削減 ^{*2}	

^{*1} Scope 1：直接排出量、Scope 2：エネルギー起源間接排出量 ^{*2} 延べ床面積当たり（賃貸物件を除く） ^{*3} 高懸念物質（Substances of Very High Concern）

38

笹井：続きまして、サステナビリティ推進部長の山田より、当社の製薬本部における地球環境対策取り組みについてご説明申し上げます。

山田：サステナビリティ推進部の山田と申します。よろしくお願いいたします。

私からは成長戦略における ESG の二つ目のテーマであります地球環境の取り組みについてご説明申し上げます。

こちらのセッションでは、最初に当社が制定いたしました2030年を最終目標といたします中期環境目標について簡単にご紹介申し上げ、引き続きまして、CO₂排出削減に向けたロードマップとその重要課題、最後に、製薬本部で取り組みを進めております環境対策の具体的な例をご紹介します。では、次のスライド38からご説明を申し上げます。

こちらが本年弊社で制定いたしました中期環境目標2030になります。昨年のESG説明会では、こちらの環境目標の制定に向けた考え方や課題などをお話をさせていただきました。それらを考慮して策定いたしましたのが、こちらの内容になります。

既にウェブページなどで公開をしているため、本日詳細のご説明は申し上げませんが、こちらの中では、重点項目といたしまして、気候変動対策、循環型資源利用、生物多様性保全の三つのテーマを設定しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



特に昨今、社会からの注目が非常に高まっております気候変動対策では、先ほどの COP26 でもありましたように、今後も社会からの要求レベルが高まることも想定いたしまして、高いレベルの目標を設定しております。

また CO₂ 排出につきましては、2050 年に排出ゼロを明記をいたしております。

中期環境目標実現に向けた重点テーマ

～特に気候変動対策において技術・投資・事業への対策が課題～



気候変動対策

CO₂排出量削減、エネルギー使用量削減

- 中外製薬のCO₂排出量の中で多くを占める研究／生産設備のCO₂削減が重要事項
(ロシュグループの目標達成においても重要)
- 施設・設備のリニューアル、省エネルギー化が不可欠
- サステナブル電力の調達と安定確保への対応
- Scope1削減にむけた技術チャレンジ
(技術、投資、事業への影響軽減)

フロン廃止

- 代替技術検証・見極めの必要性
- 自然冷媒採用によるエネルギー効率、水消費量への影響
- 代替技術がまだ存在しない設備における対応

循環型資源利用 生物多様性保全

- サーキュラーエコノミーを重視し、より能動的な資源有効利用の推進
- 事業活動に関わる水管理、水リスク評価を検討
- 継続的な有害化学物質削減への取り組み強化が不可欠
- 地域コミュニティとの協働、連携したテーマ設定が必要

CO₂排出量構成比 (2020年)



フロン保有量構成比 (2020年)



39

では、次のスライドをご覧ください。こちらでは中期環境目標の実現に向けた重点テーマについてご紹介申し上げております。

まず右側のグラフをご覧くださいと思うんですが、こちらのほうでおわかりになりますように、当社における CO₂ 排出及びフロン保有量の 95%、あるいはそれ以上が製薬本部及び研究本部によるものになります。したがって、当社の環境対策の中心はこの両本部になってまいります。

まず重要なのが省エネルギー対策となります。中外製薬におきまして、これまでも継続的積極的に省エネルギー対策を継続しております。新しい設備では、最新の省エネ設備の導入などをして取り組んでおります。

省エネ活動というのは小さな削減の積み重ねであり、一つの対策で大きな削減は期待できませんが、今後も最新の省エネ技術の調査や導入、あるいは外部専門家などの活用も行いまして、取り組みを継続してまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



Scope2 からの CO₂削減は、再エネ電力、当社ではサステナブル電力と呼んでおりますが、こちらの導入が主な手段となります。こちらは電力サプライヤーとも協力しながら、安定確保に向けて取り組みを進めてまいります。

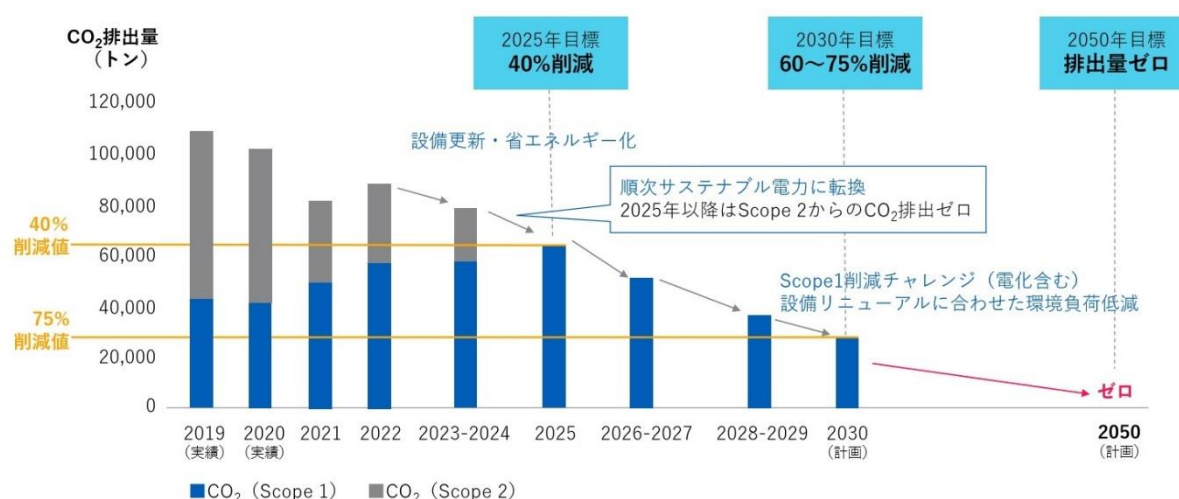
Scope1 からの CO₂削減は大きな課題、チャレンジと考えております。未だ代替エネルギーが明確にならない中での取り組みとなり、今後解決策を見出していかなければならない課題と考えております。

フロン廃止につきましては、代替技術の見極め、エネルギー効率の影響なども考慮しながら取り組みを進めてまいります。

一部には、まだ代替技術が存在していない設備などがございますが、こちらへの対応が目標達成に向けて重要な課題となってくると考えております。

CO₂排出削減に向けたロードマップ（全社）

～2025年に100%サステナブル電力に転換し目標達成を見込む～



40

では次のスライドにお進みください。こちらは CO₂削減の目標達成に向けたロードマップになります。

グラフの高さは、イメージ的なものもございますけれども、今年から既に一部の事業所や工場ではサステナブル電力の導入を始めております。ライフサイエンスパーク横浜の稼働により、一時的に CO₂排出量は増えますが、その後、既存の研究所の閉鎖、それから Scope2 からの CO₂排出をサステナブル電力の拡大により減らすこと、あるいは省エネルギー化などにより、2025 年の 40%削減の目標達成する見込みになっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

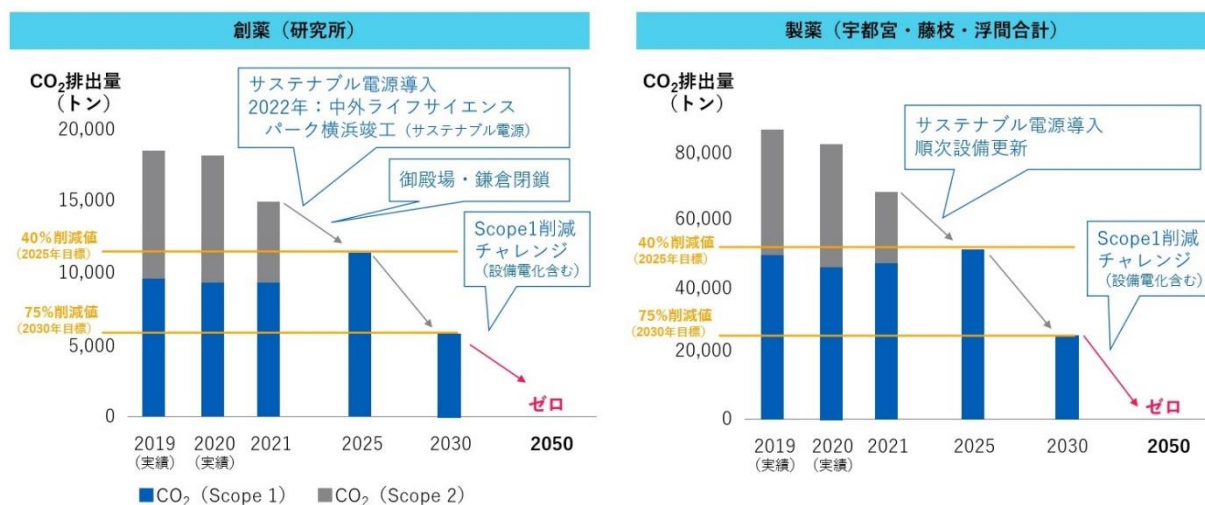


その後、2030 年に向けては、Scope1 設備の電化や、さらなるエネルギーの効率化などにより、目標達成に向けて取り組みを進めてまいります。

その後の 2050 年の排出ゼロに向けては、まだ具体的な道筋は見えておりませんが、新たな代替エネルギーの導入などによって取り組みを進めることになると考えております。

CO₂排出削減に向けたロードマップ（創薬・製薬）

～2025年に100%サステナブル電力に転換し目標達成を見込む～



41

こちらは今お示しいたしましたロードマップを研究本部、製薬本部に分けてお示したのになります。

研究本部では、2022 年のライフサイエンスパーク横浜稼働後、2023 年からサステナブル電力の導入を計画しております。その後、御殿場・鎌倉研究所の閉鎖などにより、2025 年の目標が達成できると考えております。

製薬本部につきましては、サステナブル電力の順次拡大、設備更新などによるエネルギー効率化を進めることにより、2025 年の目標達成を目指してまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



製薬：気候変動対策における重点課題

～製薬機能発展と2030環境目標達成の両立を目指した取り組み～



REDシフト・安定供給・品質向上と気候変動対策とを同時に実現する計画・取り組みが必要

中期環境目標2030の項目 (気候変動対策)	課題
Scope 1+2 CO ₂ 排出量 Scope 1+2 エネルギー消費量	・新規建設・設備リニューアル・プロセス改善 ・徹底した効率化対策によるエネルギー消費量の抑制 ・都市ガスに代わる次世代エネルギーの見極め
サステナブル電力比率	・サステナブル電力の安定調達
フロン類使用量	・新規建設・設備更新に合わせた生産・空調設備の見直し ・ノンフロン技術未開発の機器の対応

42

こちらは製薬本部における気候変動対策の重点課題をご紹介しますものになります。当社が TOP1 2030 で掲げる RED シフトと、製薬企業の責任でございます安定供給・品質向上と、こうした気候変動対策を同時に実現する取り組みが必要になってまいります。

CO₂削減、エネルギー削減におきましては、新しい設備や設備リニューアル、プロセス改善、効率化などにより取り組みを進めますが、具体的な例を申し上げますと、ここに書いてございますようなシングルユース設備の拡大、あるいはエネルギーマネジメントの最適化などがここに含まれます。

サステナブル電力導入につきましては、切り替えを進めるとともに、太陽光などの自家発電の導入の可能性も検討を進めてまいります。

フロン削減におきましては、新規設備では、自然冷媒などを用いるノンフロン設備の導入を進めております。目下、代替技術が存在しない機器では、新技術の探索や調査が必要となってまいります。2030年の目標達成に向けては、設備サプライヤー企業などとコミュニケーションを取りながら取り組みを進めてまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



製薬：藤枝工場における取り組み事例



～今後の成長を担う低・中分子医薬品生産としてEHS面での高度な技術を導入～

低・中分子医薬品合成原薬製造棟（FJ3）



- ・竣工：2024年10月予定
- ・稼働：2025年3月予定
- ・総投資額：555億円

後期臨床開発から初期商用生産までを担うFJ3により、一貫した自社供給体制を構築。高薬理活性に対応するほか、EHS面で高度な技術を導入。

生産機能面

- 高度な封じ込め技術による高薬理活性対応能力
- 製造作業を中心に自動化設備の導入による生産性向上と省力化

環境面

- 自然冷媒によるノンフロン設計
- 廃熱回収などによる省エネ/CO₂削減
- サークュラーエコノミーに向けた有機溶媒/触媒リサイクルによる廃棄物削減

安全面

- 爆発/火災等への徹底した安全設計
- 免振構造による地震対策



合成原薬製造棟(FJ2)では生産・空調両面でノンフロン設備(自然冷媒)実装済み
(写真は自然冷媒タイプの冷凍機)

43

では、次のスライドに進みます。こちらから製薬本部で実際に新規設備で進めております環境対策の具体例について2例ご紹介申し上げます。

1例目は、藤枝工場で計画をしております低・中分子医薬品合成原薬製造棟、通称 FJ3 の例になります。

こちらでは、生産機能面、安全面に加えまして、環境面といたしまして、自然冷媒を用いたノンフロン設計、廃熱回収などによる省エネルギー対策の導入、製造工程で排出される有機溶媒のリサイクルなどの検討も進めてまいります。

こちらの右にあります写真には、自然冷媒のアンモニアを用いた冷凍機の設備の写真になります。実際に設置されておりますのは、同じ藤枝工場ですが、現在建設中の FJ2 という設備になりますが、実際に既にこうしたノンフロン設備の導入を藤枝工場では進めてございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



製薬：浮間工場における取り組み事例

～生産の迅速化・効率化と環境対応「3ゼロ」の取り組み～



バイオ原薬製造棟（UK4）

初期開発用治験薬製造を担うUK4では、バイオ原薬製造のスピード・フレキシビリティと持続可能性を追求した「3ゼロ」の取り組みが特徴

フロンゼロ

- 自然冷媒の活用によるフロン使用ゼロ

ガスゼロ

- 製造プロセスを含む省エネ化によりオール電化を実現(Scope1をゼロに)

CO₂ゼロ

- シングルユースの積極活用（適用範囲拡大）
- 膜処理タイプの水設備による省エネ化
- 空調モード切替制御、高効率モーター、人感センサーを用いた空調/照明最適化
- 非GMPエリアの自家再生エネルギー化



- ・ 竣工：2023年9月予定
- ・ 稼働：2024年1月予定
- ・ 総投資額：121億円

シングルユース設備の環境負荷低減

- ・ タンク洗浄や蒸気滅菌などが不要、水使用量や消費電力が少なくCO₂排出量抑制
- ・ 以上から従来のステンレス製培養槽よりも総合的な環境負荷が低いと分析
- ・ UK4にて計測機器を新たに設置し環境負荷データを検証・分析



【今後の課題】

プラスチック廃棄物が増加する想定。使用済バッグや梱包材などの廃棄物のリサイクル方法検討が重要。

44

では、次のスライドに進んでまいります。こちらが私のセッションの最後になりますけれども、2例目は、浮間工場で建設を予定しておりますバイオ原薬製造棟、UK4 の例になります。

こちらはフロンゼロの設計、都市ガスを直接燃焼する設備を持たないガスゼロの設計に加えまして、サステナブル電力、自家再生エネルギーなどの導入で、CO₂排出ゼロを目指す3ゼロがコンセプトとなっております。特にガスゼロにつきましては、徹底的な省エネを進めることにより、オール電化を実現することができました。

また、こちら UK4 では、環境に負荷が少ないとされているシングルユース設備の使用範囲の拡張を計画しております。稼働後、実際に環境負荷データを取得、分析の計画をしております。

一方で、シングルユース設備の拡大は、プラスチック廃棄物の増加に繋がりますが、こちらにつきましても、廃棄物のリサイクルの検討などを進めてまいります。以上で私からのご説明を終わります。どうもありがとうございました。

笹井：ご清聴いただきまして、ありがとうございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



質疑応答

笹井：これより質疑応答に移ります。大変恐れ入りますが、より多くの方にご質問いただくため、ご質問は1人2問までとさせていただきます、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、ご質問内容の音声はプレゼンテーションとともに後日当社ウェブサイトに掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。

また、本日は製薬本部で環境対策を担当しておりますデジタルエンジニアリング部の斎藤も同席させていただきますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、会場でご参加いただいている方々からご質問を頂戴いたしまして、その後、電話会議でご参加いただいている方のご質問をお受けしたいと思います。会社名、お名前をおっしゃっていただいた後、ご質問のほど、よろしくお願いいたします。それではご質問のある方。

兵庫：三菱 UFJ 信託銀行の兵庫と申します。本日はありがとうございます。1回目から3回目、全部参加させていただいて、前回から今回のジャンプアップって、非常によく練られているなと、外部のいろいろな考え方も取り入れて練られているなという感じがして、非常にいいなと思いました。ぜひ業界全体でも使えるようなロールモデルになっていただきたいなと思いました。

それを踏まえて、2点質問させていただきます。今回の御社のこのご説明を拝見しますと、自社としてどうするかというのは非常に説明が多いのですが、外部との連携、他のステークホルダーとの連携をどういうふうに考えているかというところが少し見えないのかなと思っております。

製薬特有の状況もございますが、例えば日用品ですと、ライオンさんと花王さんが廃プラのところ
で手を結ぶとかですね、業界としてどうするかというような発想がちょっと足りないのかなという
ふうに思います。

ロールモデルを目指すにあたっては、その発想は多分抜けないと考えてますので、ここについてど
ういうふうに考えているかということを1点お願いします。これが1番目です。

笹井：ありがとうございます。

兵庫：上野さん、お願いできますか。

上野：それでは私のほうからお答え申し上げたいと思います。非常に大事なご指摘だと思います。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



私どもだけの活動がどうかということだけではなくて、これから協業が必要だと、協働作業が必要だという、そういうことからすると、業界がどういう形でまとまっていくのか、その中でどういうふうにグループワークをしていくのかと、非常に大事なご指摘だと思っております。

業界としては、やはり医薬品をどのように患者さんに負担なく、早く許可を取って、それを早く市場にデリバーをするのか、そういうところを主体に現在進めているという認識をしております。

今後については、私どもの業界はエネルギーをすごく消費をするという、そういう産業ではございませんけれども、やはりそういうものについてもいろいろ協議をすることは必要だと思います。

特に今後の大きな課題は、やっぱり医薬品の一次包装、二次包装、例えば、PTP ですとか、注射剤を梱包してますいわゆる容器ですね、プラスチックですとか、バイアルだとか、ああいうものに対して、もちろんあれは全体の安定性を確保するという、その大きな使命があるわけですから、それと環境問題をどういうふうに一緒に解決をしていくのか。その辺が大きな課題ではないかと考えております。以上でございます。

兵庫：ありがとうございました。2 点目の質問は、気候変動対策のところにおいて、サステナブル電力の比率というのを掲げていただいております。国際的なイニシアチブでは、RE100 というのがあって、小野薬品さん等は賛同されているという実績がございます。

御社としても、どこかのタイミングでこの RE100 にコミットする、賛同されるご計画があるのでしょうか。以上でございます。ありがとうございます。

山田：はい、私からご報告ご回答申し上げます。RE100 につきましては、来年度に申し込みと云うのですかね、申請するかどうかを検討しようとしております。

ちなみに、SBT につきましては現在申請中でありまして、外部の認証と言いますか、それにつきましては、いろいろな面を考えながら、していくか、していかないべきかを、今後も継続して判断していくことになるかと考えております。

兵庫：ありがとうございました。一つだけ要望ですが、次回ぜひもし可能であれば、今回コメントだけいただいた社外取のメッセージ、拝見させていただいたのですが、ぜひもし機会があれば、登壇していただいて、第三者から見た御社の ESG 活動の取り組みを少しお話いただければありがたいかなと思います。

ちょっとこれ拝見すると、いいことは書いているのですが、やはり課題のところがなかなか記載がないので、ぜひそのあたりもあると、より透明性が高いサステナビリティ推進に繋がるのかなというふうに思いました。私から以上です。ありがとうございました。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

笹井：ありがとうございます。

橋口：大和証券の橋口と申します。環境について二つあります。一つ目が、2050年のCO₂排出ゼロに向けてです。今日も非常に難しい目標だというのは何度か繰り返していただきましたが、一方で、私の聞き間違いでなければ、上野さんが最初のほうに、課題はあるけど道筋も描けるようになってきたとおっしゃったように思いました。

1年前の説明会と比べると、ちょっとそういう意味では、前に進んだのかなという印象を持ったのですが、その道筋が描けるようになったのは何が変わってきたのかということと、あと実現に向けて、社会全体のイノベーションが必要なんだろうというのはよくわかるんですが、製薬業界ならではの達成に向けた課題というものを認識されていて、御社として取り組まねばならないとお考えのことがもしあれば、ご紹介、共有いただけますでしょうか。

上野：はい、それでは私のほうから最初お答えをさせていただいて、もし補足があれば、製薬本部、もしくは山田のほうからお答えをするというふうに思います。

まず製薬業界として対応をする特別な点があるのかという、そういうことからすると、全部ではないかもしれない、1点ということで申し上げますと、私どもの工場におけるいわゆるクリーンルームと言うのですかね、常に無菌状態にする、そういう中で薬を作るという、そういう環境の維持が必須になってきてございます。

これを私ども、東日本大震災の時に経験したのですが、これを維持するエネルギー、1回無菌をブレイクしますと、そのまた無菌を維持するために何カ月というプロセスが必要になってくるので、ずっと維持しなくちゃいけない。

これって半導体も一緒だと思うのですが、そのために、そうするとエネルギーの量というのは、消費量というのはそんなに生産量とリンクしないのです。

環境を維持するということがやっぱり一つのキーワードで、それを維持するために相当のエネルギーを消費している、そういう業界特有の、もしくは私どもの製品ミックスによるそういう特性がございますので、その辺をいかに削減していくかというのが課題だろうと感じております。

最初のその道筋ということから申し上げますと、先ほどご案内ありましたように、やはり75%削減まではいけるということです。今までざっくりとして、年次ごとに何パーセント削減をしていくということで、どういう道筋で2050年、2030年を迎えるかということを検討しておりましたが、具体的な各サイトの、一つ一つの建物とか何とか見える化できてきている。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



そこでどういう課題があるかという、より詳細までわかってきているということからすると、もちろん 75%以上、これは非常に高いハードルではありますが、ここに解決しなくてはいけない問題ということがより見えてきたので、そこに対してどういう打ち手をするとか、打てない手もありますけど、打てない課題もありますけども、そこは他のイノベーターの方々とどうやってやるかという、その辺が少しずつ見えてきているところが、進捗だと思っております。

山田：はい、では私から少し補足させていただきます。今上野がご説明申し上げましたとおり、昨年は目標に対する考え方をお話させていただいて、ただ実際にどういう道筋を進めていけるかというのがまだ検討途中だといったことでございます。

この1年で、主に製薬本部におきましてですけれども、今上野からありましたように、個々の設備ですとか建物につきまして、何ができるかということを検討してきまして、75%削減までは、例えば Scope1 の Scope2 化ですとか、そういうもので何とかいけるのじゃないかということで、道筋がそこまではかなり見えてきているということになります。

ただ、もう一つは、やはり製薬企業で特に蒸留水というのを作るような時に、直接火を炊かないとエネルギー効率が悪いですとか、高い水蒸気が、温度の高い水蒸気が作れないとかという設備がございまして、こちらのほうをどういうふうに対応していくかが、他にもございますけども、今一番大きい課題だと私は考えております。

そこにはやはりまだ見えていない、例えば水素をそこで使えるのかですとか、バイオガスがこれから出てくるのかですとか、そういうあたりの新しいエネルギー源を見極めながら進めていくということで、そこはやはりまだ少し道筋が見えていないというか、今具体的にどういう道筋でゼロに達成することができるかというのは見えていないところになるかと考えております。

橋口：ありがとうございます。もう1点が、浮間工場における環境負荷の取り組み事例として、シングルユースの概要についてご紹介いただきましたが、昨今の COVID-19 による、いろいろ需要が大きく変わったりだとか、サプライチェーンの混乱とかで、シングルユースについては、調達がちょっと難しくなっているというような話も聞いたことがあるんですけど、御社としては、そういうリスクをどのように見てらっしゃいますでしょうか。

斎藤：ではそれについては斎藤から答えさせていただきます。

おっしゃっていただいたように、シングルユースの需要が逼迫している実態は事実としてあると思っており、弊社も一定の影響を受けております。ただ、シングルユースは医薬品の製造の一つ重要なパーツとなっておりますので、シングルユースの集約化と、あとやはりリードタイムを十分に見

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

るというようなサプライ面での手当ということで、現時点での医薬品の生産には、われわれはコントロールできていると。

それと将来こういう設備を入れて、ある程度運用していけるという目処は、今のところ、ちゃんとつけているということで、この設備の導入を始めております。

橋口：ありがとうございます。以上です。

笹井：ありがとうございます。

ヤマダ：日本経済新聞社のヤマダと申します。ご説明ありがとうございました。私からも2点、質問ございます。

1点目が、上野さんが冒頭で、先ほどもありましたけれども、やっぱり2050年にゼロという目標はなかなか高い目標で、自社の行動力だけではできない部分は、外部との、イノベーターとの連携というのを進めていきたいと。

実際に今そういう話みたいのもあると思うのですが、それってお話しいただける範囲で、具体的に今どういうイノベーター、例えば医薬のバイオ系の、例えばエネルギーとかをやっている会社との連携なのか、どういう意味合いでのそのイノベーターとの連携なのかというのを教えていただけますか。

上野：はい、これは、環境問題というのはやっぱりどこのステークホルダーの方々も持っている課題だということで、特に電力・ガス関係の方々も、今までの延長線上でいいとは考えておられないので、そこでサステナブルな電力ですとか、ガスだとか、そういうものをどうやって供給して、開発していくのかについてのいろいろな意見交換とか、まずはそのメジャーな今のプレーヤーの方々といろいろとご相談をさせていただいている、そういう状況です。

そういう中で、多分もう少し技術的に解決をしなくちゃいけないという問題が出てくれば、その技術を持っておられる、特化している技術を持っておられるところと、またお話をすると、そういうステップになるのかなというふうに考えております。

ヤマダ：ありがとうございます。あとサプライチェーン、御社の取引先、仕入先の方との環境問題とかに対する取り組みという点で伺いたいのですけれども、例えば製薬以外の、今いろいろな業界で、例えば供給網、仕入先が人権問題とかに配慮していなかった時に、対話をし直していくとか。

あるいは本当に仕入先を変えてしまうみたいな動きも業界としては起こっていると思うのですけれども、なかなか医薬品業界としてそういうのができるのかという部分もちょっとあると思うので

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

す。例えば仕入先と環境とか人権とかそういうことについて、御社として何か対話されているような事例とかがあったらぜひ教えていただきたいです。

上野：それでは全体感だけ、私のほうからお答えをさせていただいて、具体的な人権という話が、事例がよろしいかと思うのですが、それについては、担当のほうからお話をさせていただきたいと思います。

私ども、4,000 以上のサプライヤーの方々とお付き合いをさせていただいていますけど、もちろんその 4,000 軒以上の方々が同じようなレベル感でコンタクトする、もしくは関係を結ぶということはなかなか難しいので、プライオリティをつけて、重要なところから一緒に同じ目標を見ていただきたいという、そういう活動をしているわけです。

まず新しいパートナーと組む時には、いろいろな人権ですとか、環境ですとか、もちろん BCP 対応ですとか、それからそれ以外の ESG 項目について、どのように取り組まれているのか、そういうものをお互いに話し合っ、同じ目線で、同じ高さでやっていただけるパートナーなのかどうかという、そこを最初に評価をさせていただいていると、そういうところです。

もちろんそういう方々と、そのプロセスを通じて、一緒にやるかどうかの判断になると思うのですが、明らかにこれは私どもとしてやっぱり問題がある、そういうレベル感であると、もちろん私どもがお願いをしたいという本業としての要件がありますから、もちろんそれはクリアをしているという前提ですけれども、それプラスアルファで、ESG、環境、人権、そういうファクターについてどうやって評価をするかということだと思うのですが、それについてはやはり改善をしていただく。

私どもが理解ができ、ある程度改善していただき、そういうレベル感で一緒にすることが判断できれば、そういうところとお付き合いをするということになると思いますし、明らかにこれはリスクがありそうだというところについては、その時点でまた別の方とパートナーシップを組むと、そういう判断基準でございます。

山田：では、私のほうからもう少しご説明申し上げます。人権ですとか環境につきましては、国際的な製薬企業が加盟しております PSCI、Pharmaceutical Supply Chain Initiative というコンソーシアムがございまして、もしかしらご存知かもしれませんけれども、当社もそちらのほうに加盟しておりまして、その基準に基づいて、査察を行って判断をしております。

今上野が申し上げましたように、大体 3 段階ぐらいにそれを考えておりまして、1 段階はもうこことはお付き合いできないという、本当に赤と言うのですかね、例えば、そんなことは今までござい

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



ませんでしたけど、児童労働をしているとか、そういうところについてはもう最初からお付き合いをしないと。

その上で、足りないのだけれども、われわれとともに改善を目指していただけるようなところは、ビジネスを継続しながら改善を進めていくと。

その上の十分なレベルに達しているというところでございますので、その改善していただけるところは、継続してビジネスを続けていくことになります。

PSCI に参加、今の基準で監査ですとかしてまいりましたけれども、主には例えば CMO ですとか、非常にわれわれにとって重要なサプライヤーを優先して行っております。

今までは、ちょっとここはお付き合いできませんという実績はなかったということになりますので、特にそれでここは取引をやめますという実績はこれまではございません。

ヤマダ：ありがとうございます。

笹井：ありがとうございます。それでは続きまして、電話会議にてご参加の方よりご質問を頂戴したいと思います。なおご質問される際には、会社名、お名前お伝えくださいますようお願いいたします。

それでは最初の質問に移ります。シティグループ証券の山口様、お願いいたします。

山口：シティの山口です。ありがとうございます。質問一つです。ESG の取り組みと企業価値で、特に経済価値、ページで言うと、21 ページだと思うんですが、利益の増大、投下資本の低減、資本コストの低減というのをご紹介いただきました。

御社の活動の中で、この投下資本の低減と資本コストの低減について、計測できているものがあれば、どのぐらい下がっているのか、あるいはどのぐらい下げようとしているのかというようなものがもしあれば、教えていただけると、DCF の計算上、非常に役に立つのでお願いします。

板垣：板垣です。資本コストについては、もちろん内部では、外部で計算されているようなコンセンサスとか、いろいろなものを、そういったものを使っておりまして、多分これは公的なものと、公的と言うのでしょうかね、開示されているものがございますので、共有はできるかなと思いますが、もちろん各会社さんで、いやこれは自分独自でするので、自分でやる DCF では使わないということもあろうかと思いますが、共有化することはできます。

あと具体的な投下資本の低減内容とか、利益はもうこっちに出て、わかるかと思いますが、DCF というのは、実は、当たり前ですけど、将来に向けての損益がどうなるか、キャッシュフローはど

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

うなのか、投資はどうか、こういうことになりますので、われわれの将来の数字につきましては、現時点で開示する予定もございませんし、共有化することはできないということでございます。

山口：具体的には、資本コストって下がっていると思われませんか。

板垣：いくつかのシナリオケースによって、それぞれ使っておりますので、今何パーセントということはここでは共有化することはちょっと差し控えたいと思います。

山口：そうなんですけど、方向性としては下がっているというのを社内的には感じておられますか。

板垣：そうですね、過去からずっと見てみますと、資本コスト自体は下がってきてございます。

山口：下がっているんですね。はい、わかりました。ありがとうございます。

笹井：ありがとうございました。それでは次のご質問に移りたいと思います。モルガン・スタンレー証券、村岡様、お願いします。

村岡：ありがとうございます。すみません、ちょっと今日のお話には直接関係なかったかもしれない問題なのですが、ちょっと気になっているのが環境負荷の話です。、医薬品って、患者さんが捨てられる薬、使わずに捨てられる薬っていうのがあると思うのですが、それこそ抗菌剤とかホルモン剤とかって、結構環境負荷あるのかなと思ったりするのですが、こういった部分、何か御社の取り組みとか、業界の取り組みとか、何かあるものなののでしょうか。

糖尿病の会社とかは、シリンジの回収とかしているんですけど、何かこのあたり、具体的なエピソードあったら教えていただけると助かります。

笹井：はい、ありがとうございます。ご質問ありがとうございます。

上野：上野ですけれども、具体的に今ご指摘あったような残薬を回収するとか、そういう取り組みは現在行っておりません。

ただ、できるだけ、もちろん患者さんが処方された薬を、いろいろな理由があるかもしれないけど、飲まないという前提で考えておりませんので。処方はされて、それが正確に服薬される、もしくは投与されるという前提から考えると、できるだけ患者さんに合ったような薬剤のドーズ設計をする、無駄にならないようなものを、注射のバイアルに注射器に入れていく、そういう工夫がこれから必要になってくるのではないかと思います。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

お答えになっていないかもしれませんが、以上でございます。

村岡：ありがとうございます。こういった部分って、今後、例えば、外部のところから、医薬品業界、問題だよねみたいなご指摘って、特には出てはいないと、現時点では思ってよろしいんでしょうか。

上野：具体的にどういうご意見があって、それをどこまで頂戴しているかというのは把握できておりませんが、考えられることとしては、やはりインフルエンザのタミフルの時に指摘をされたのは、河川に薬剤が、水に流出して、鳥がそれを飲むことによって、またその耐性が出てくるんじゃないかみたいな、そういう一部に議論がございました。

私どもとしては、そういうものに対しては真摯に対応するとそういうことで、具体的なアクションはしておりませんでしたけれども、そういうようなことは考えられることだと思います。

村岡：わかりました。大変参考になりました。ありがとうございます。以上です。

笹井：ありがとうございます。

それでは次のご質問、NHK のアヅチ様です。お願いします。

アヅチ：新型コロナの治療薬の早期開発という点で AT-527 について、アテア社が先日、2 相の試験で、主要評価項目が達成しなかったとご発表がありました。

また今月 12 日に、3 相の計画の変更を発表しましたが、御社で取り組まれている国内開発にどう影響するでしょうか。

また先日公表されていたデータの公表とか、厚労省への申請の時期など、これまでの工程から変更があれば、合わせて教えてください。

草野：臨床開発の草野でございます。私のほうからお答えさせていただきます。

AT-527 の開発でございますが、アテア社から発表がございましたとおり、フェーズ 2 の結果をアテア社から発表してございます。

その結果をもとに、現在アテア社、並びにロシュ社、さらに弊社で現在行っておりますフェーズ 3 を今後どうしていくか、現在検討している最中でございます。まだはっきりした方向性は決まっておりますが、継続して今回得られたフェーズ 2 の結果をもとに今後の方針を決定していきたいと考えてございます。

アヅチ：今後のスケジュールの変更等は、これまでの情報とはまた変わりないでしょうか。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

草野：はい、今後スケジュールに関しましても、合わせて検討していきたいと考えてございまして、申し訳ございません、現在フェーズ2の結果が出たばかりでございますので、今後の方針に関しましては検討中といったところになってございます。

アツチ：ありがとうございました。

笹井：ありがとうございました。それではお時間となりましたので、以上をもちまして弊社のESG説明会を終了いたします。もし追加でご質問ある方がいらっしゃいましたら、広報IR部までお問い合わせください。本日はお忙しい中ご参加くださいます、誠にありがとうございます。これにて失礼いたします。

[了]

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

